

科目名	発達臨床フィールドワーク		
担当教員名	伊藤 恵子、綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知見を基礎として、「心理学」が社会のさまざまな場で、どのように役立っているのかを具体的に理解する科目である。

科目の概要

いくつかの臨床現場 (医療・保健の施設や機関、学校教育および関連する施設や期間、社会福祉関連の施設や期間) に向いて見学させていただくとともに、現場で従事されている専門家の方からのお話をうかがう。事前のガイダンスと事後のまとめを見学ごとに行う。

学修目標

知識として学んできた発達心理学や臨床心理学などが現場でどう生きているか、現場で「心理学を活かすことに」どんな難しさがあるのか等、発達臨床に対する理解を深める。さらに、受講生が自分の将来の道を考える上での「心理学を活かす」という視点を実質化することを目指す。

内容

1. 現場 (医療・保健関連、学校教育関連、社会福祉関連の施設や機関を予定) への見学等が学習活動に含まれます。
2. 現場見学にあたっては、事前のガイダンスを実施します、事後のまとめを実施します、見学にかかる経費 (交通費など) は受講生の自己負担となります。
3. 見学を実施する時期は、通常の授業が行われない日程となります (例えば集中講義期間、春期休業期間) 。
4. 現場見学を行うために、受講生の人数 (上限) を設定します。
5. 見学先、時期、受講制限などについては、学科オリエンテーションにて説明します。

評価

見学ごとのレポート (100点) にて評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

推薦書】麻生武・浜田寿美男編「よくわかる臨床発達心理学」ミネルヴァ書房 2005

科目名	創造性の心理学		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 2年次までに履修した心理学の専門科目を直接の基礎としているわけではないが、これまでに履修したさまざまな科目が陰に陽に関わってきて役立つであろう。また、この科目で学ぶ事柄は他のさまざまな科目の学修に必ずや役立つであろう。

科目の概要 創造性に関する基本的事項についてしっかりと理解を図った上で、紙上エクササイズにおいて創造的思考の諸方略を実際に使用してみるにより、その方略の有効性をしっかりと知ると共に創造的思考力の向上を図ることを目的とする。

学修目標 まず創造性とは何か、問題発見の諸方法、創造的思考の過程についてしっかりと理解した上で、創造的思考の方略の使い方と有効性について紙上エクササイズを通じて体験的に学んでほしい。そのためには、授業に毎回出席し、紙上エクササイズの課題に真剣に取り組むことが大切である。

内容

1. 創造性とは (その意味と重要性、創造的思考力、創造的技能、創造的人格)
2. 問題発見の方法 (問題とは、問題発見の諸方略)
3. 創造的思考の過程 (ワラスの4段階説ほか)
4. 創造的思考の方略 ~ < 拡張 >
5. 創造的思考の方略 ~ < 焦点化 >
6. 創造的思考の方略 ~ < 観点変更 >
7. 創造的思考の方略 ~ < 逆発想 >
8. 創造的思考の方略 ~ < 分類・分解 >
9. 創造的思考の方略 ~ < 加減 >
10. 創造的思考の方略 ~ < 結合 >
11. 創造的思考の方略 ~ < 変換 >
12. 創造的思考の方略 ~ < 類推 >
13. 創造的思考の方略 ~ < 反復検討 >
14. 創造的思考の方略 ~ < 弁証法的解決 >
15. まとめ

以上の事項について、毎回、教科書を使って (別途、資料を配布することがある)、講義形式で授業を行う。授業中に、関連事項について質問を發して、挙手の形で答えてもらうという質問応答形式を取り入れていく。それに続いて数十分間ほど、個別あるいはグループで、与えられた課題に取り組み、配布された用紙に書いてもらう。記述した配布用紙は毎回提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。思考力は、スポーツやお稽古事等と同じく、単なる知識の習得だけでは身に付かず、実際に実行してみることが不可欠だからである。

なお、紙上エクササイズについては、毎回、同じエクササイズプリントを配布し宿題の形にして、再度取り組み、より完全なものにして提出してもらう。

このようにして、創造的思考の方略について理解を深めるとともに、創造的思考力を体験的に伸ばしていくことをねらっ

ている。

評価

平常点つまり毎回の課題の出来栄え点(40点) 筆記試験(60) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】江川?成著 『創造的思考の原理と方略』 金子書房

【推薦書】高橋誠編著 『新編 創造力事典』 日科技連

日本創造学会編 『「驚き」から「閃き」へ(創造性研究9)』 共立出版

科目名	生徒指導		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 この科目は人間発達心理学科生の教職科目の一つで、必修科目である。

科目の概要 生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、きちんと理解を図ることを目的とする。合わせて、進路指導についても同様に理解を深めることをねらう。

学修目標 この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性、指導の組織と計画、生徒理解の方法、指導方法、進路指導等について、きちんと理解してほしい。そのためには、毎回、授業に出席し、しっかりと授業に取り組むことが大切である。

内容

1. 生徒指導の意義と目的
2. 生徒指導の領域・内容と課題
3. 生徒指導と教育課程との関連
4. 生徒指導の組織と計画
5. 児童・生徒理解の意義と重要性
6. 児童・生徒理解の内容
7. 児童・生徒理解の方法（観察法）
8. 児童・生徒理解の方法（面接法）
9. 児童・生徒理解の方法（検査法）
10. 生徒指導における集団活動の意義と重要性
11. 生徒指導における集団指導の方法
12. 進路指導の目的と内容（その1）
13. 進路指導の内容（その2）
14. 進路指導の方法
15. まとめ

授業は教科書を使って行うが、必要に応じて別途プリントや資料を配布し、講義形式で行う。そして、質問を発して、挙手の形で答えてもらうという質問応答の方法を取り入れて行う。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく、かつ復習を兼ねて何回か質問を発し、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点と出欠チェックの資料となる。

評価

平常点(15点) レポート(15点) 筆記試験(70点) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】江川?成編著 『生徒指導の理論と方法（三訂版）』 学芸図書

【参考図書】江川?成編集 『校長・教頭のための児童・生徒問題対応百科』 教育開発研究所

上寺久雄編 『生徒指導』 有信堂

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学の入門講座 (心理専門科目の基礎) として、人間の行動と心を科学的に理解する態度と視座を身につける。

科目の概要

物理学が「物」の理を探究するのに対して、心理学は「心」の理を探究する学問です。では、その「心」とは何を指し、どのようにして理を探究するのでしょうか？

前半は「脳と心」をテーマに、簡単な心理学実験などに参加してもらい、自らの体験を通して人間の反応や行動の特徴を学ぶと同時に、そのメカニズムについて考えます。

後半は「心と適応」をテーマに、実際に心理テストや思考課題を行い、人間の社会的適応・不適応のメカニズムやコミュニケーションのあり方などを実践的に学びます。

学修目標

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

内容

- 0 1 . 心理学とは
- 0 2 . 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 0 3 . 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 0 4 . 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 0 5 . 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 0 6 . 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 0 7 . 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 0 8 . 発達と認知 - 発達とは
- 0 9 . 発達と認知 - 育み合う心
- 1 0 . 情報と思考 - 推論とは
- 1 1 . 情報と思考 - 原因を考える
- 1 2 . 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 1 3 . 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 1 4 . 社会的行動 - 適応と不適応
- 1 5 . 総括

評価

中間テスト40%、期末試験60%の計100%で評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書・推薦図書は授業のなかで適宜紹介する。

科目名	心理学概論		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学の入門講座 (心理専門科目の基礎) として、人間の行動と心を科学的に理解する態度と視座を身につける。

科目の概要

物理学が「物」の理を探究するのに対して、心理学は「心」の理を探究する学問です。では、その「心」とは何を指し、どのようにして理を探究するのでしょうか？

前半は「脳と心」をテーマに、簡単な心理学実験などに参加してもらい、自らの体験を通して人間の反応や行動の特徴を学ぶと同時に、そのメカニズムについて考えます。

後半は「心と適応」をテーマに、実際に心理テストや思考課題を行い、人間の社会的適応・不適応のメカニズムやコミュニケーションのあり方などを実践的に学びます。

学修目標

人間科学としての「実証的な心理学」に対する興味・関心、理解を向上させるとともに、その興味・関心を受講者自ら追究できるようになることを目指します。

内容

- 0 1 . 心理学とは
- 0 2 . 脳と心の進化 - 動物にも心はあるか
- 0 3 . 脳と心の進化 - ヒトから人へ
- 0 4 . 物理世界と知覚 - 見える世界と見えない世界
- 0 5 . 物理世界と知覚 - 見える仕組み
- 0 6 . 記憶と忘却 - 覚えること・思い出すこと
- 0 7 . 記憶と忘却 - 記憶の変容
- 0 8 . 発達と認知 - 発達とは
- 0 9 . 発達と認知 - 育み合う心
- 1 0 . 情報と思考 - 推論とは
- 1 1 . 情報と思考 - 原因を考える
- 1 2 . 社会的行動 - 他者の行動を考える
- 1 3 . 社会的行動 - 自分の行動を考える
- 1 4 . 社会的行動 - 適応と不適応
- 1 5 . 総括

評価

中間テスト40%、期末試験60%の計100%で評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書・推薦図書は授業のなかで適宜紹介する。

科目名	発達心理学概論		
担当教員名	内田 伸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.科目の性格：発達心理学的研究方法論の基礎を理解する。
- 2.科目の概要：言語と認識の関わりからの視点から、5つのトピックをとりあげ、人間発達過程について理解する。
人間発達の可塑性、言語・認知の発達、想像力の発達、読み書き能力の発達、子ども理解
- 3.学修目標：子どもの発達、言語と認識の関係について、自分なりのイメージを描けるようになること。発達心理学の方法論について理解すること。

内容

1	ことばと人間：人類進化の歴史から言語と意識の起源を探る
2	世界認識の開始：感覚運動知能の発達過程
3	象徴機能の発生：世界や自己についての概念の成立過程
4	母子相互作用：非言語・言語コミュニケーションの成立過程
5	言語の獲得：母語習得の特殊性は何かを探る
6	会話行動の発達：会話の発生過程と自己内対話
7	会話行動の性差：生物学的性差と社会的な制約
8	考えることばの習得：助数詞獲得の文化差
9	第二言語の習得：言語獲得に臨界期はあるか
10	日本での英語習得：小学校からの英語活動導入の意味と意義を探る
11	ことばが遅滞するとき：養育放棄の中でのことばの育ち
12	児童虐待からの再生：負の連鎖は断ち切れるか
13	想像力の発達：子どものウソは「嘘」か？ 創造的想像力を育てる
14	読み書き能力の獲得：学力格差は幼児期から始まるか
15	書くことによる認識の発達：作文の心理学：書くこと・考えること・生きること

評価

講義への参加度（質問、コメントを募る、討論に参加する）20%、授業終了時に書く授業に対するコメント10%、期末レポート70%で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：内田伸子著 発達心理学—ことばの獲得と教育— 岩波書店 2002

推薦書：藤永 保・斎賀久敬・春日 喬・内田伸子 人間発達と初期環境 有斐閣 1987

内田伸子 子どもの文章—書くこと・考えること 東京大学出版会 1990

内田伸子 言語発達心理学 放送大学教育振興会 1998

内田伸子 想像力—創造の泉をさぐる— 講談社 1994

科目名	乳幼児期の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

生涯発達領域 専門科目

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。身体・認知・情緒などの諸側面から発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深め、臨床や実践活動のための基礎知識を身につけることを目標とする。また、生まれたばかりの状態から「人になっていく」過程を知ることによって、乳幼児期が人の一生のなかでどのような意味をもつのか考えるきっかけとなることを目指す。講義形式の授業とするが、適宜映像視聴や小レポートを実施する予定。

学修目標

- ・乳幼児期の身体発達について説明できる
- ・乳幼児期の知覚と認知の発達について説明できる
- ・乳幼児と養育者の関係の発達について説明できる
- ・幼児期の仲間関係や社会性の発達について説明できる

内容

1	乳幼児期とは
2	新生児の能力
3	身体・運動の発達
4	乳児期の認知発達
5	幼児期の認知発達
6	個性の発生
7	「自己」への気づき
8	愛着と親子関係
9	愛着と親子関係
10	他者との関係の発達
11	情緒と感情の発達
12	言語とコミュニケーションの発達
13	遊びと想像性
14	年齢別の発達の様相
15	まとめ

評価

平常点10点、授業時の小テスト・小レポート30点、期末試験60点。合格点60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

[推薦書] 柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房

科目名	児童期の心理学		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

本科目は、人間発達心理学科の専門科目である。生涯発達領域の「乳幼児期の心理学」や「青年期の心理学」「中高年期の心理学」などと関連が強い。児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面からとらえると共に、学童期の最も重要な側面として社会性育成の視点について理解を深める。

【科目の概要】

自己概念や道徳性の発達過程、遊びや仲間関係の発達・変化など、児童期の心理発達を身体的、知的、情緒的側面について学ぶ。また同時に、児童虐待や発達障害など、児童期の子どもたちに特徴的な問題についても取り上げ、児童への幅広い考察をねらいとする。

【学修目標】

児童期の心理を理解するための基本的な枠組みを身につける。

将来、子どもに関わる職業に就く学生や将来子どもを持つ学生が、自身の子どもの観を再認識し、知識を深める。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	イントロダクション～児童期の特徴
2	児童期を取り巻く発達理論
3	児童の認知の発達
4	児童の言葉の発達
5	児童の自己と発達課題～自己意識とセルフコントロール
6	児童の社会性 道徳性の発達
7	児童の社会性 仲間関係の発達
8	児童の社会性 社会的行動の発達
9	児童の社会性 性役割の形成と獲得
10	児童期の問題 不登校
11	児童期の問題 いじめ
12	児童期の問題 発達障害
13	児童期の問題 児童虐待
14	児童への援助の実際
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】桜井茂男[ほか]著 『子どものこころ 児童心理学入門』 有斐閣アルマ 2003

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	青年期の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

青年期は、「子ども」から「大人」への移行期であり、身体的・性的成熟、精神的・社会的成熟が相互に関わりあって人格の統合へと向かう時期である。この時期には、急激な身体的変化や認知能力の発達によって、多くの者が、それまで気がつかなかった自分自身のことや、人間関係、社会との関わりについて深く考え、ときに思い悩むようになる。青年期には何が起こるのか、青年期とは私たちにとってどのような意味を持っているのか。本講義では、青年期の成立や青年心理学の研究方法を学習するとともに、青年期の身体的発達、自己とアイデンティティ、性と性役割、職業観と進路選択など青年期の心理学的問題に焦点をあて、わかりやすく解説していく。青年期の最中にある受講生諸君にとって、講義内容を自分自身の問題としてとらえ、自ら考える契機と成ることを目標とする。

内容

1	ガイダンス：授業の概要
2	青年期とは
3	青年心理学の成立
4	青年心理学の研究手法
5	大人になること
6	青年期の身体的変化
7	青年期の自己(1)自己理解・自尊感情
8	青年期の自己(2)アイデンティティ
9	性役割
10	理解度の確認
11	将来決定(1)：職業興味検査
12	将来決定(2)：進路決定と職業
13	青年期の人間関係
14	青年期の感情
15	まとめ

評価

期末テスト60点+中間テスト30点+授業内の課題10点とする。60点以上を合格とし、達しない場合再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配付する。

科目名	中高年期の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を伴った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

2. 科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

第1回 ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要

第2回 「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み

第3回 「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい

第4回 「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待

第5回 「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実

第6回 「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方

第7回 「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差

第8回 「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常

第9回 「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き

第10回 「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？

第11回 「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実

第12回 「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実

第13回 「代理出産ビジネスの現実と新たな生命を誕生させることの意味」：米国における代理出産

第14回 「戦争と自分」：現代世界の紛争・内戦・戦争の実質的な担い手の「少年兵」

第15回 まとめ：本講義での学習内容のまとめを行った上で、学習の習熟を測る「期末レポート（小論文テスト）」を講義時間内に実施する。

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、それを前提とした毎回の小レポート（講義内容への習熟を測る小論文）の内容を指す。併せて、講義最終回に、期末レポートとして、小論文の作成を求める。成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート(最終講義回に実施する小論文テスト)』が30点、の構成にて配点し、それを基準として評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2008年6月号（特集：処分されるペットたち）」

「Days Japan 2008年9月号（特集：結婚させられる少女たち）」

「Days Japan 2009年5月号（シオラレオネ出産の悲劇ほか）」

「Days Japan 2009年10月号（特集：カンボジア地雷探知犬が救う命）」

科目名	母子関係論		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格：本科目は、生涯発達の視点から母親と子どもの関係を学ぶ必修科目です。
2. 科目の概要：妊娠、出産、育児という過程で展開される養育者、とりわけ母親の発達とその子どもの発達の相互の関係について学びます。
3. 学修目標：
 - (1) 子どもの発達と養育者との関係について学ぶ。
 - (2) 養育者としての母親の存在について考える。
 - (3) 子育て支援について考える。

内容

- 1 妊娠・出産と母親
- 2 養育者と子どもの絆の形成
- 3 精神的健康の保持と安定した愛着形成のための視点
- 4 妊娠期からの父母子の関係
- 5 子育て期のソーシャルサポート
- 6 虐待の可能性とその防止(1)
- 7 虐待の可能性とその防止(2)
- 8 虐待の可能性とその防止(3)
- 9 養育者としての母親の存在・親としての力
- 10 子育ての力を高める・親としての発達
- 11 子育て相談の実際
- 12 グループ発表(1)
- 13 グループ発表(2)
- 14 グループ発表(3)
- 15 まとめ

評価

日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40% と、期末テストの成績 60% を成績評価の対象とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

初回授業時に指示します。

科目名	ライフサイクル論		
担当教員名	塩谷 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人の一生を誕生から死までのライフサイクルととらえ、その歩みを生涯発達の視点からみてゆく。エリクソンの漸成的発達理論を援用してひとの一生の歩みを理解すると共に、各発達段階の課題と危機について学び、危機への対処方法について考えることを目的とする。また、本講座を通じて、女性にとってのライフサイクルについても考えたい。

内容

講義方針：授業の前半は講義形式で各発達段階について学び、後半は具体的事例の検討を通じて理解を深める。

授業計画

- 第1回 授業の進め方について、ライフサイクル論とは
- 第2回 ライフサイクルの諸理論
- 第3回 乳児期～幼児前期
- 第4回 幼児後期～就学まで
- 第5回 児童期前期(小学1～3年生)
- 第6回 児童期後期(小学4～6年生)
- 第7回 思春期前期(中学生)
- 第8回 思春期後期(高校生)
- 第9回 青年期前期(大学生)
- 第10回 青年期後期(学生と社会人の間)
- 第11回 成人期 社会人として
- 第12回 成人期(社会人・家庭人として)
- 第13回 中年期(壮年期)
- 第14回 老年期
- 第15回 ライフサイクルとその後、まとめ

評価

授業に対する意欲・関心・態度、コメント・レポート・試験等を総合して評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】馬場禮子・永井徹共編 『ライフサイクルの臨床心理学』 培風館 2004(初版第13刷)

科目名	文化と発達		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性質：

心理専門科目「生涯発達科目」における選択科目のひとつである。

授業は講義形式だけでなく、適宜「テーマ」を設定し、ディスカッションなどの機会を設け、学生間での「思考の交流」を促す。

科目の概要：

「文化」と「教育」の観点から、子どもの認知発達のメカニズムについて学ぶ。主に、言語や表象、因果推論の発達プロセスを扱う。また、文化的・教育的背景に基づいて、今日の子どもたちがかかえる困難や発達的問題について、家庭・地域・学校などでの支援のあり方を考える。豊かな発達を実現するための環境や社会的条件とはどのようなものか多角的に検討する。

学修目標：

子どもの認知発達の基本的特徴を学ぶとともに、その発達的变化をもたらすメカニズムについて理解を深める。学生は自身の卒業研究や研究と社会とのつながりを意識しながら学んでほしい。

内容

- 01．ガイダンス
- 02．認知発達の基礎 - ヒトから人へ
- 03．認知発達の基礎 - 感覚を通して周囲の世界の認知する
- 04．文化と言語発達
- 05．文化と概念発達
- 06．コミュニケーションの発達：情報と文化
- 07．コミュニケーションの発達：情報と教育
- 08．社会に生きる力 - 因果推論の発達
- 09．社会に生きる力 - 論理的思考の発達
- 10．社会に生きる力 - 学習とメタ認知
- 11．世界の教育と文化
- 12．認知発達と支援：発達障害の発見
- 13．認知発達と支援：学習障害を考える
- 14．認知発達と支援：文化と教育
- 15．総括

上記の内容と順番は受講人数や理解の進度に応じて変更することがある。

評価

中間試験40%、期末試験60%の計100%で評価を行う。
中間試験は課題（小レポート等）に変更することもある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書・推薦図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	発達心理学特講		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、人の「受精から死に至るまでの発達」を研究する心理学の一分野である発達心理学について学ぶことになる。

科目の概要

人が発達することの意味を深く考え、そこから生じる課題を理解する。その課題はさまざまであり、課題を考察することで、人が発達し成長することを事例などを通して理解することとなる。

学修内容

胎児期・新生時期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期という人の発達段階をふまえ、生涯発達心理学の理解を深め、さらに専攻研究にもとづいた基本的な発達心理学的理論も学ぶ。

内容

1	発達とは何か
2	誕生期からある不思議な能力
3	乳幼児期・新生児期における基本的な発達理論
4	コミュニケーションの基礎ができる
5	乳児期における基本的な発達理論
6	感覚からイメージの世界へ
7	乳児期における基本的な発達理論
8	「わたし」と「あなた」の違いに気づく
9	乳児期における基本的な発達理論
10	思考力がつき、人間関係が発達する
11	児童期における基本的な発達理論
12	子どもと大人の間で揺れ動く
13	青年期における基本的な発達理論
14	変化し続けるところからだ (成人期における基本的な発達理論)
15	まとめ

評価

授業中に取り組む課題 (30点)、レポート課題 (30点)、定期試験 (40点)、2 / 3 以上の出席。以上のことをふまえ、総合的に評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業で案内する。

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて援助するための学問である。本科目では、臨床心理学の初歩的な知識を学ぶことを目的とする。具体的には、心の問題や精神疾患に関する専門的知識、心の状態を測定するための各種の心理検査法、そして当事者への支援や介入を行うための様々なカウンセリングの理論や技法についても取り上げる。また、臨床心理学が現代社会にどのように生かされているか、実践領域での具体例も随時紹介していきたい。

学修目標

臨床心理学の初歩的な知識を学ぶ。

内容

1	臨床心理学とは何か
2	心の病 うつ病の理解
3	心の病 うつ病の対応
4	心の病 不安障害
5	心の病 統合失調症
6	心の病 まとめと確認テスト・解説
7	心理検査 質問紙法
8	心理検査 投影法・描画法
9	心理検査 作業検査法
10	心理療法 コラージュ療法を理解するための演習
11	心理療法 コラージュ作品の解説と心理療法とは
12	心理療法 精神分析
13	心理療法 認知行動療法
14	心理療法 クライアント中心療法
15	まとめ

評価

確認テスト30点と期末テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】杉原一昭監修 「はじめて学ぶ人のための臨床心理学」 中央法規

科目名	臨床心理学概論		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科1年次の必修科目のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

臨床心理学とは、何らかの心の問題や葛藤を持つ人に、心理学的な知識や技法を用いて援助するための学問である。本科目では、臨床心理学の初歩的な知識を学ぶことを目的とする。具体的には、心の問題や精神疾患に関する専門的知識、心の状態を測定するための各種の心理検査法、そして当事者への支援や介入を行うための様々なカウンセリングの理論や技法についても取り上げる。また、臨床心理学が現代社会にどのように生かされているか、実践領域での具体例も随時紹介していきたい。

学修目標

臨床心理学の初歩的な知識を学ぶ。

内容

1	臨床心理学とは何か
2	心の病 うつ病の理解
3	心の病 うつ病の対応
4	心の病 不安障害
5	心の病 統合失調症
6	心の病 まとめと確認テスト・解説
7	心理検査 質問紙法
8	心理検査 投影法・描画法
9	心理検査 作業検査法
10	心理療法 コラージュ療法を理解するための演習
11	心理療法 コラージュ作品の解説と心理療法とは
12	心理療法 精神分析
13	心理療法 認知行動療法
14	心理療法 クライアント中心療法
15	まとめ

評価

確認テスト30点と期末テスト70点により、評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】杉原一昭監修 「はじめて学ぶ人のための臨床心理学」 中央法規

科目名	発達臨床心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：本科目は、これまで学んできた発達理論、発達研究を実際の発達支援に生かすための応用力を培うための科目です。

科目の概要：出生前から高齢期にいたる各ライフステージにおける発達とその支援について学習します。また、精神障害の基礎知識、発達障害の基礎知識などについて受講者とともに考えていく予定です。

学修目標：

1. 各ライフステージにおける発達とその支援について理解する。
2. 精神障害の基礎知識を学ぶ。
3. 発達障害の基礎知識を学ぶ。

内容

1. 発達臨床心理学とは
2. 胎生期～新生児期における発達とその支援
3. 乳児期における発達とその支援
4. 幼児期における発達とその支援
5. 児童期における発達とその支援
6. 青年期における発達とその支援
7. 成人期における発達とその支援
8. 高齢期における発達とその支援
9. 各ライフステージにおける発達とその支援についてのまとめ
10. 精神障害 (1)障害とは (2)精神障害とは
11. 発達障害 (1)発達障害とは (2)代表的な発達障害
12. グループ発表(1)
13. グループ発表(2)
14. グループ発表(3)
15. まとめ

評価

日常点(課題提出・小テスト・授業態度・発表など)40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

初回授業時に指示します。

科目名	カウンセリング基礎 (理論)		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

カウンセリングとはある人が抱える問題や悩みに対して、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助のことである。したがって、この科目を学ぶことは、自他問わずメンタルヘルス対策につながる可能性がある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な解決方法のひとつにカウンセリングがある。その基礎基本となり、支える諸理論 (精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等) を専門的に学ぶ。

学修目標

カウンセリングの基礎となるさまざまな諸理論を学んだ上で、カウンセリングとはいかなるものかを事例や体験を通して、その知識や理解を深める。

内容

1	はじめに
2	カウンセリングとは (歴史、語源、定義等)
3	カウンセリングと心理療法の異同
4	カウンセリングを支える代表的な理論 (精神分析療法) (1)
5	カウンセリングを支える代表的な理論 (精神分析療法) (2)
6	カウンセリングを支える代表的な理論 (認知行動療法) (1)
7	カウンセリングを支える代表的な理論 (認知行動療法) (2)
8	カウンセリングを支える代表的な理論 (来談者中心療法) (1)
9	カウンセリングを支える代表的な理論 (来談者中心療法) (2)
10	プロセスとしてのカウンセリング (カウンセリングマインド、信頼関係の構築)
11	心理アセスメントの方法
12	カウンセラーに必要な知識と技術 (傾聴、受容、共感)
13	カウンセリングの諸理論 (家族療法、芸術療法、内観療法、森田療法) (1)
14	カウンセリングの諸理論 (折衷的カウンセリング、統合的カウンセリング) (2)
15	まとめ

評価

授業中の姿勢や態度、課題への解答 (30%)、試験 (70%)。2 / 3 以上出席すること。合格点 (60 点以上)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）「物語から考えるカウンセリングの基礎 その理論と技法」

エース出版、著者（柏葉修治）

科目名	カウニング基礎 (理論)		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

カウニングとはある人が抱える問題や悩みに対して、専門的な知識や技術を用いて行われる相談援助のことである。したがって、この科目を学ぶことは、自他問わずメンタルヘルス対策につながる可能性がある。

科目の概要

人が抱える心理的な問題や悩みに対する専門的な解決方法のひとつにカウニングがある。その基礎基本となり、支える諸理論 (精神分析療法、認知行動療法、来談者中心療法等) を専門的に学ぶ。

学修目標

カウニングの基礎となるさまざまな諸理論を学んだ上で、カウニングとはいかなるものかを事例や体験を通して、その知識や理解を深める。

内容

1	はじめに
2	カウニングとは (歴史、語源、定義等)
3	カウニングと心理療法の異同
4	カウニングを支える代表的な理論 (精神分析療法) (1)
5	カウニングを支える代表的な理論 (精神分析療法) (2)
6	カウニングを支える代表的な理論 (認知行動療法) (1)
7	カウニングを支える代表的な理論 (認知行動療法) (2)
8	カウニングを支える代表的な理論 (来談者中心療法) (1)
9	カウニングを支える代表的な理論 (来談者中心療法) (2)
10	プロセスとしてのカウニング (カウニングマインド、信頼関係の構築)
11	心理アセスメントの方法
12	カウンセラーに必要な知識と技術 (傾聴、受容、共感)
13	カウニングの諸理論 (家族療法、芸術療法、内観療法、森田療法) (1)
14	カウニングの諸理論 (折衷的カウニング、統合的カウニング) (2)
15	まとめ

評価

授業中の姿勢や態度、課題への解答 (30%)、試験 (70%)。2 / 3 以上出席すること。合格点 (60 点以上)。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

（教科書）「物語から考えるカウンセリングの基礎 その理論と技法」

エース出版、著者（柏葉修治）

科目名	カウンセリング基礎（技法）		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

心理的問題を解決する方法のひとつにカウンセリングがある。そのカウンセリングの基本的技法を幅広く専門的に理解を深める。その際、対人関係における自分と他人との特徴を知るということは、人間的成長にも密接につながる性格の科目である。

科目の概要

カウンセリングとはどのようなものか、またどのように進められるのかというカウンセリングの基本的な技術や技法を体験や事例を通して学ぶ。

学修目標

- ・カウンセリングの基礎基本となる技術（技法）の習得
- ・カウンセリングはどのように進められるのかを学ぶ
- ・クライアント理解の幅を広げる

内容

1	はじめに（カウンセリング技法を取り巻く基礎概念）
2	カウンセリングの技法とはなにか（理論に基づく技法、進行過程に基づく技法）
3	カウンセリングの技法と効果の関係（認知の変化、情動の変化、行動の変化、生理的变化）
4	クライアントの観察技法
5	カウンセリング場面における非言語的技法
6	カウンセリングの傾聴技法（明確化、感情の反映）
7	カウンセリングの傾聴技法（言い換え、要約）
8	カウンセリングの活動技法（特定の情報、矛盾の提示）
9	カウンセリングの活動技法（解釈、情報の提供）
10	傾聴・活動技法以外のカウンセリング技法（リフレーミング、語調反射）
11	傾聴・活動技法以外のカウンセリング技法（自己開示、反復、沈黙）
12	クライアントの問題を定義づける技法
13	目標を設定する技法
14	抵抗とその対応方法
15	まとめ

評価

授業中の姿勢や態度、課題（30%）、試験（70%）、2/3以上の出席は必須。総合的に判断して評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用する教科書：大谷 彰 著（「カウンセリングテクニック入門」二弊社）

科目名	精神保健概論		
担当教員名	藤井 靖		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

カウンセリングや心理療法の技術の習得、あるいは臨床現場でのフィールドワークの前提となる、精神保健に関する全般的な知識を得ることを目的とします。

科目の概要

現代の学校現場においては、不登校やいじめをはじめとして、虐待、非行、さらには精神疾患、心身症など、非常に多岐に渡る問題を孕んでいます。本講義では、子どもと関わる者にとって重要なトピックである、子どもの心身に起こりうる問題のメカニズムとその対処について検討していきます。

学修目標

精神保健の定義や対象について縦断的および横断的に理解する。

子どもの心身に起こる問題と対処について、基礎的知識を身につける。

ストレス理論等、メンタルヘルスに関連する諸理論についての知識を得る。

精神保健に関連する法規や施設について理解を深める。

授業で学んだ内容について、問題意識や自分なりの意見を持ち、表現する。

内容

1	受講ガイダンス、精神保健とは
2	精神保健の対象、歴史、現状
3	胎児期、乳幼児期の発達と心理
4	幼児期、学童期の発達と心理
5	思春期の発達と心理
6	学校と家庭・地域・関係機関との連携
7	青年期、成人期、老年期に起こりうる問題
8	不登校・問題行動と対処の実際
9	心身症と対処の実際
10	精神疾患と対処の実際
11	虐待と対処の実際
12	発達障害と支援の方法
13	関連法規・施策と施設(1)
14	関連法規・施策と施設(2)
15	まとめ

評価

学修目標に関する試験(30点)、レポート(50点)、授業態度(20点)により評価を行い、60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書・テキスト】使用しません。必要に応じて資料を配布します。

【推薦書・参考図書】授業の中で適宜紹介します。

科目名	幼児期の心理臨床		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格：本科目は、これまで学んできた発達心理学や学習心理学などの知見を踏まえ、乳幼児期に焦点を当て、発達の特徴に応じた支援を行うための科目です。
2. 科目の目標：乳幼児期における、認知、社会性などの諸側面の発達課題について理解することをまず目指します。そのうえで各発達の課題が達成されなかった場合、どのような問題が表れ易いか、そのような問題を未然に防ぎ、発達を支援するには、どのようなことが必要かを学びます。発達の問題に対する見解については、さまざまな立場があるため、立場の相違によって支援方法にどのような違いが生じるかに関しても、考えていく予定です。
3. 学修目標：
 - (1) 乳幼児期における認知、社会性、コミュニケーション等の発達課題についての理解。
 - (2) 発達課題が達成されなかった場合に表れやすい問題の理解。
 - (3) 発達の支援に関する理解。

内容

1. 発達とは 発達の課題とは
2. 発達の基礎理論 (1)
3. 発達の基礎理論 (2)
4. 胎生期～周産期の心理臨床
5. 新生児期の心理臨床
6. 乳児期の心理臨床
7. 幼児期の心理臨床 (1)
8. 幼児期の心理臨床 (2)
9. 中間まとめ
10. 発達の支援 (1)
11. 発達の支援 (2)
12. 発達の支援 (3)
13. グループ発表
14. グループ発表
15. まとめ

評価

授業への参加度 (課題提出・小テスト・中間テスト・授業態度など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。合計で60点以上を合格としますが、期末テストが60点に満たない場合は、不合格とします。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

初回授業時に指示します。

科目名	児童期の心理臨床		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

児童期における精神面の発達上の問題 (問題行動や不適応、精神的疾患など) について、その種類と特徴、原因、教育・治療的支援など幅広い性格をもつ。

科目の概要

児童期の心理臨床とは、主に心理的な要因によって問題行動や症状を出している子どもやその家族に対して、専門的な知識をもちかつ訓練を受けた者が関わりを重視しつつ行う支援活動のことである。

学修目標

幼児期から思春期が始まるまでの子どもたちが直面するさまざまな心理的問題の理解とその対応について、たとえば、発達障害やいじめ問題、不登校等の問題について、児童期における事例を通してその知識と理解を深める。

内容

1	はじめに (児童期における問題行動と種類、行動問題の規定要因)
2	問題と症状からみた子ども理解 (病因論を中心とした問題の理解) (1)
3	問題と症状からみた子ども理解 (D S M を中心にみた子どもの問題) (2)
4	児童期におけるいじめ問題 (いじめの概要、いじめに関する研究)
5	わが国の心理臨床における子どもの問題の特徴
6	子どもとストレス (事例からの考察、生徒指導上の諸問題、不登校)
7	児童期における不登校問題とその対応
8	児童期における心理的問題に対する方法 (聞き取りの仕方、面接方法等)
9	家族への関わり方 (家族療法的アプローチ)
10	心理的問題を抱える児童および家族への関わり方 (S S T、心理教育)
11	子どものセラピーにおける基本的課題 (支援モデル、基本的態度と姿勢)
12	子どものセラピーにおける基本的課題 (初回面接における課題)
13	子どものセラピーにおける基本的課題 (セラピー過程における課題)
14	心理的問題を抱える子どもの事例考察
15	まとめ

評価

授業に取り組む姿勢や態度と課題 (30%)、筆記試験 (70%)、出席は 2 / 3 以上必須。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指示する

科目名	青年期の心理臨床		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目である。1年次に必修科目となっている「臨床心理学概論」や「発達心理学概論」、生涯発達領域の「青年期の心理学」などとも関連が強い。

科目の概要

青年期に生じやすい心の問題を発達をつまずきという視点からとらえ、理解を深めていく。具体的事例をもとにしながら、それぞれのテーマとなる問題の背景や現状を把握し、社会、地域、学校、家庭に求められる対応のあり方、予防法などを取り上げる。

学修目標

- ・青年期に生じやすい心の問題への知識及び対応方法を学ぶ。
- ・青年期にある受講生の精神的健康度を高めるための予防的な対処法を学ぶ。

内容

1	青年期の発達理論～自分のこれまでを振り返る～
2	青年期の発達理論～友人から見た自分とは～
3	「キレル」とは
4	「キレル」への対応
5	摂食障害とは
6	摂食障害への対応
7	ひきこもりとは
8	ひきこもりへの対応
9	自殺の現状
10	自殺予防・対策
11	新型うつとは
12	新型うつへの対応・予防
13	パーソナリティ障害
14	青年期の心理臨床の総括
15	まとめ・解説

評価

レポート (20点) と期末試験 (80点) により評価する。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は特に定めない。推薦書などは適宜授業中に紹介する。

科目名	中高年期の心理臨床		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、前期開講の必修科目「中高年期の心理学」で得た現実への認識を前提に、実際に生きている人のナマの声を聴きながら、それを手掛かりに、中高年期への、より深い理解を目指し開講する。

2. 科目の概要

世界中で起きているさまざまな現実のひずみに関し、人は、自らの心の平穏を保つために「あえて見ないようにする」ことがある。また、仮に自分の目に入っても、自分の耳に聴こえてきても、「他者がそのような状況にあるのは分かったけれど、自分は体験したことがないので、リアルに感じられないから」と理由をつけて、気にかけてない・働きかけてない・自分に来ることをしないとといったことをすることがある。本科目は、このような前提にたち、中高年期の諸課題を、他者の「語り」を通して、実感的に理解を進める方途とスキルを獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、「体験してないから分からない」という論理構成の中にいる自分に気づき、その上で、世界中の中高年の現実に対し、一人の市民として、自らが貢献し得る知識と技術とは何かを考え、それを習得することを学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

学習題材としての「社会問題」は、1) 世界中の女性への差別や搾取(第1週～第4週)、2) 中高年期の性同一性障害(第5週～第7週)、3) 中高年期のセクシャリティと児童買春(第8週～第9週)、4) カルト宗教と中高年(第10週～第12週)、5) 世界中で起きている戦争や内戦と中高年期の保守性(第13週～第14週)などを取り上げる。

なお、本科目の特徴として、「現実を実感する」題材提供を、2つの立場の「生きた人々のナマの声」を用いる方法により行う予定である。具体的には、1) 中年期に難病に苦しみながら生き生きと暮らす中年女性のお話を聴く機会と、2) ハンセン病療養所へのスタディツアーを、題材提供の計画に含んでいる。

第1に、『中年期に難病を発症し今も病気と闘いながら生きている中年期の女性』のお話は、「全身性エリトマトーデス」という難病を患いながら、中年期を充実して生きていらっしゃる女性の方に来学いただき、直接「女性が中高年期を生きること」というテーマで、お話を聴かせていただく。

第2に、『ハンセン病療養所・多磨全生園』へスタディツアーに行き、高齢期にあるハンセン病回復者に直接お会いしお話を聴く、日帰りの訪問を行う。

また、第15週目の開講日には、本科目の「まとめ」として、それまでの学習内容のポイント・キーワードを確認した上で、講義時間内に「期末レポート（小論文テスト）」の作成を課す。

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、それを前提とした毎回の小レポート（講義内容への習熟を測る小論文）の内容を指す。併せて、講義最終回に、期末レポートとして、小論文の作成を求める。

成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が70点(「5点/回」×14講義回=70点)、『期末レポート(最終講義回に実施する小論文テスト)』が30点、の構成にて配点し、それを基準として評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2007年11月号（特集：食べもの人間）」

「Days Japan 2007年3月号（特集：写真版 世界がもし100人の村だったら）」

「Days Japan 2006年12月号（特集：最底辺の子どもたち）」

「Days Japan 2006年2月号（特集：貧困）」

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格：障害のある人の機能的制約は、環境によって異なるため、環境因子の一つとして、適切な支援を行うことは極めて重要です。本科目は、これまで学んできた知見を踏まえて適切な支援を行うための学習を通し、自らの生き方を考える科目です。
2. 科目の概要：各障害の診断基準および心理学的特徴に関して学習します。各障害の特徴に配慮した支援の在り方について受講者とともに考えていきます。
3. 学修目標：
 - (1) 障害の理解。
 - (2) 各障害の診断基準及び心理学的特徴の理解。
 - (3) 上記を踏まえた上での各障害への対応及び支援の理解。

内容

- 1 障害とは
- 2 自閉症[※]・外[※]障害者の心理学的特徴と支援 (1)
- 3 自閉症[※]・外[※]障害者の心理学的特徴と支援 (2)
- 4 学習障害者の心理学的特徴と支援
- 5 注意欠陥/多動性障害者の心理学的特徴と支援
- 6 知的障害者の心理学的特徴と支援
- 7 視覚障害者・聴覚障害者の心理学的特徴と支援
- 8 言語障害者の心理学的特徴と支援
- 9 肢体不自由者・重度重複障害者・病弱者の心理学的特徴と支援
- 10 精神障害者の心理学的特徴と支援
- 11 各障害者の心理学的特徴と支援のまとめ
- 12 さまざまな立場の支援の方法
- 13 グループ発表 (1)
- 14 グループ発表 (2)
- 15 まとめ

評価

日常点 (課題提出・小テスト・授業態度・発表など) 40%と、期末テストの成績60%を成績評価の対象とします。ただし、期末テストの得点が60点に満たない場合には、不合格となります。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

初回授業時に指示します。

科目名	障害者の発達支援		
担当教員名	新井 豊吉		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：この科目は卒業後、さまざまな障害をもった児童・生徒または成人された方々と関わっていかこうとする学生のための科目です。

科目の概要：担当教員は現職の支援学校の教員・心理士であるため発達障害に関する理論と実際について教育現場の実践を交えて学生と学びあっていきます。特別支援学校および障害者施設見学を実施する予定です。

学修目標：特別な支援を必要としている人たちへの理解を深めます。具体的な支援方法を学びます。現在または卒業後に自分はどのような支援ができるのかなど自己理解を深めます。

内容

集中講義のスケジュールは次のような日程になっている。

12月26日 1～5限、12月27日 1～5限、1月25日午前午後：特別支援学校等（都立あきる野学園・日の出福祉園）で実習
履修人数が多数の場合は、履修制限を行う可能性もある。

1	障害とはなにか
2	特別支援教育の制度
3	特別支援教育の現状と課題
4	発達障害の理解 (LD, ADHD)
5	発達障害の理解 (自閉症)
6	障害児へのいじめと虐待
7	障害児への体罰
8	障害者の性を考える
9	アセスメントについて
10	障害特性に応じた支援方法 1
11	障害特性に応じた支援方法 2
12	特別支援学校見学
13	特別支援学校見学
14	障害者施設見学
15	障害者施設見学及びまとめ

評価

各回の小レポート (30点)、口頭発表 (20点)、学修目標に関するレポート (50点) により評価を行い、60点以上を合格とします。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	心理療法		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

学科専門科目の心理臨床科目の科目で、臨床心理学の基礎を既に学んだ者を対象とする。

心理臨床にたにたずさわる者として、理解しておくことが望まれる理論がいくつかある。そこで、本科目ではそれらのうち代表的な理論をいくつか取り上げ、基礎知識を習得することをねらいとする。

【科目の概要】

心理療法の歴史をひもとき、どのようにして現在のような心理療法が誕生してきたかを探る。また、それぞれの心理療法の特徴について紹介する。

【学修目標】

心理療法の主たる理論について理解する。心理臨床に関する各理論について学びを深め、日常生活の中でカウンセリング・マインドの実践ができるようになることを目標とする。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

注意 本講義は、意見交換・発表など参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	はじめに～心理療法の歴史
2	ロジャース派
3	精神分析 フロイトとその後継者たち
4	ユング派
5	行動療法
6	家族療法学派
7	遊戯療法
8	箱庭療法
9	認知療法
10	認知行動療法
11	催眠療法、自律訓練法
12	アドラー心理学
13	ゲシュタルト療法
14	内観療法
15	ブリーフ・セラピー

評価

授業中の参加態度や提出物35%、最終発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、レポートを課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】窪内節子・吉武光世著『やさしく学べる心理療法の基礎』培風館 2003

【参考書】乾吉佑他編『心理療法ハンドブック』創元社 2005

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、合格点は60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、合格点は60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学生が心理学の概念・理論・研究事例を主体的に学習し、その成果を発表し質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、合格点は60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	心理学入門演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

質疑応答を展開することで、受講生相互に学びを深める「演習」の入門科目である。演習での学習方法を修得することも目標の一つである。今後の専門科目の学習や卒業研究の基礎ともなるもので、積極的な姿勢で臨むことが大切である。

科目の概要

1年次の専門科目で学習した事項をもとに、心理学の主要分野（発達・臨床・教育・人格・社会等）の専門書の講読などを通じて、心理学の諸概念や理論について、より具体的なテーマに沿って考えて理解を深める。

受講生は4つのグループに分かれ、各グループに、二人の教員が前半と後半に分かれて担当する。教員ごとに扱う心理学分野は若干異なるが、進め方は基本的には同一である。発表担当者はテキストや文献をあらかじめ読んで、要約資料を作成・配布して報告する。他の受講者はこれに対して質疑応答を行い、全員で討論を行う。

学修目標

テキストや文献を読んで主体的に理解すること、それを参加者が理解できるように報告すること、具体的なテーマに沿って心理学の諸概念や理論を修得することが目標である。

内容

第1回は、オリエンテーションで、受講者のグループ分けと各教員の内容の詳細な説明を行う。

第2回から第15回までは、グループに分かれ、教員ごとに7回ずつ演習形式で授業を行う。

各教員が扱うテーマは以下の予定である。テーマと担当教員に関する詳細は、第1回に説明する。

- A．日常生活や社会における心理臨床に関する事例について調べる
- B．発達障害に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- C．人間の知覚や認知発達に関する文献を読み、心理学の研究方法を学ぶ
- D．日常生活や社会における記憶の働きを扱った研究事例について調べる

評価

発表と要約資料（50点）、質疑応答・討論への参加（30点）、レポート（20点）による計100点として、合格点は60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書・参考書】各担当教員から、適宜、指示と助言がある。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通して、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・ テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・ 研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・ 研究の実施
- ・ 収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・ 研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通じて、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	人間発達演習		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

4年次の卒業研究へと継続する科目であり、受講生各自の問題意識に基づいた課題設定のもとに、主体的で探究的な学習活動を展開することが必須となる。

科目の概要

人間の発達、心理臨床、日常生活場面における人間の行動に関する諸課題について、担当教員の専門領域に基づいた研究アプローチを基本として、基礎的文献の講読、個人およびグループによる実証的研究の実施および発表と討論を行う。

学修目標

発表・討論などを通して、取り上げた課題に対する理解を深めるとともに、その解決に向けた研究方法の習得を目的とする。

内容

導入的専門書・研究論文の講読

心理学および担当教員の専門領域に関連した導入的専門書や研究論文の講読を通して、心理学的な考え方や研究の進め方について理解を深める。

講読した内容は、レジュメにまとめるとともに、口頭発表を行い、知識・理解の共有を図る。

研究実習

質問紙調査法・観察法・実験法を利用して、特定のテーマについて研究を進める。

- ・テーマの設定、テーマに関連した基本的事項の理解
- ・研究仮説の設定、研究計画の設定
- ・研究の実施
- ・収集したデータの集計・分析、仮説の検証
- ・研究レポートの作成、研究結果の発表

【注：具体的な学習活動は、担当教員および受講生の研究テーマによって異なる場合もある】

評価

通年での学習活動（レジュメに基づく口頭発表、研究実習など）および研究レポートの内容に対する総合的評価を100点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	発達心理学外書講読		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

英文で発達心理学および発達臨床心理学の文献を読む。人の発達はその人の育つ社会や文化と切り離せない。世界中で研究されている発達心理学は国によっていろいろな発達の様相を示しているが、日本語で読めるのはそのごく一部である。英語で文献を読むことによって、世界の文化のなかの多様な人の発達の姿を見ることができる。大学院進学者の受験対策も兼ねているので、大学院進学を考えている学生には受講をすすめる。

学修目標

- ・英語文献を効率的に読むことができる
- ・英語文献の要点を読みとることができる
- ・英語文献の内容を理解しまとめることができる
- ・英語文献を読むことを通し、様々な文化の中での発達の様子を知る

内容

15回の授業を通して、発達心理学と臨床心理学に関係した文献を読む。文献は担当者が用意する。

- ・発達心理学の歴史上重要でよく知られている研究についてやさしく書かれた文を読む。
- ・臨床心理学のなかで受講学生の興味に従って文献を選び、読む。

評価

毎回の小レポート50点、期末テスト50点。合格点60点。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業時に指定する。

科目名	心理学方法論		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、いくつか確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究（主に卒業研究）を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次回の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得る、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

予定する講義内容は以下の通りである（キーワードのみ示す）；

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心の働きを測る：名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度
3. 三つの研究方法：量と質の話．調査・質問紙法，実験，そして観察
4. 調査・質問紙法その1：相関仮説と構成概念．測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成．縦断研究と横断研究．妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法．「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念．行動指標と生理指標
8. 実験法その2：実験計画．統制条件．1要因と2要因．参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法．下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法．観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究，実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法，実験，観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える．自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. 試験および解説：果たして心は測れるのか？

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格

とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で，随時紹介する．

科目名	心理学方法論		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学には、普段の生活で感じる「心についての疑問」を系統だてて調べる方法が、いくつか確立されている。本科目ではこれらの一般的な研究方法を解説する。

科目の概要

心理学の方法としてよく用いられる、1)調査・質問紙法、2)実験、3)観察について順を追って解説する。

分かりやすい研究（主に卒業研究）を例にとり、これらの研究が「何を知りたくて、何を測り、いかに解析したか」の過程を実例から追う。

毎回、授業後に短いエッセイの提出を求め、次の授業で優れたエッセイを紹介し、復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

卒業研究に取り組むための素地を作りたい。

すなわち、自らが抱く「心についての疑問」に答えを得る、相応しい方法を探す機会を提供する。

内容

予定する講義内容は以下の通りである（キーワードのみ示す）；

1. 実証研究としての心理学：仮説がなぜ必要か？知りたい疑問を心理学の研究に落とし込む実例
2. 心の働きを測る：名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度
3. 三つの研究方法：量と質の話．調査・質問紙法，実験，そして観察
4. 調査・質問紙法その1：相関仮説と構成概念．測度
5. 調査・質問紙法その2：質問紙尺度の作成．縦断研究と横断研究．妥当性と信頼性
6. 調査・質問紙法その3：仮説の検証方法．「統計的有意」が意味するもの
7. 実験法その1：仮説と構成概念．行動指標と生理指標
8. 実験法その2：実験計画．統制条件．1要因と2要因．参加者間と参加者内比較
9. 実験法その3：仮説の検証方法．下位検定と交互作用
10. 観察法その1：観察法に仮説は必要か？観察法の意義
11. 観察法その2：観察の方法．観察者バイアスとその緩和
12. 観察法その3：事例研究，実践研究への展開
13. 優れた研究例に学ぶ：素朴な疑問に調査・質問紙法，実験，観察がいかに答えを出すか
14. 総復習：卒業研究のテーマを考える．自分の疑問にふさわしい方法はどれか？
15. 試験および解説：果たして心は測れるのか？

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし、合計で60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

高野陽太郎，岡隆 編（2004）心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし（有斐閣アルマ）

他の推薦図書は授業の中で，随時紹介する．

科目名	心理統計法		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学の実証的研究を進める上で必要不可欠である統計法の基礎を身につける。卒業研究までの多くの専門科目において基礎となる事項を学ぶ。

科目の概要

最初に、記述統計学と呼ばれるデータ集計の基礎を学習する。細かな計算式の解説ではなく、具体的なデータを実際に集計することで、統計用語に親しみ、計算手順を経験し、記述統計の考え方を理解することを重視する。次に、推測統計を学習する。実験計画法に基づいて測定されたデータに対する統計的仮説検定の手順について、具体的なデータの分析を通して習得する。「仮説」をどのように立てるのか、実験・調査の計画の立て方についても、合わせて理解することを目指す。

ほとんどの受講生が統計法について初学であることを考慮して、本科目における統計計算には、コンピュータアプリケーションではなく電卓を用いる。データを丹念に眺めること、計算の意味を理解し、計算手順を厳守する態度を養って欲しい。

学修目標

統計手法の実践力を身につけること、集計結果や検定結果を分析の目的に即して読み解く力を学ぶことが目標である。ほぼ毎回宿題を課すので確実に解答すること。

内容

- 1 . ガイダンス、心理統計法の意義
- 2 . 心理データの測定と尺度
- 3 . 度数分布
- 4 . 統計図表 (質的変数の図示法、量的変数の図示法)
- 5 . 代表値 (平均値、中央値、最頻値)
- 6 . 散布度 (分散と標準偏差、範囲、四分領域)
- 7 . 正規分布と相対的位置
- 8 . 2 変数間の相関、線形回帰
- 9 . 2 つの平均の比較 (t 検定)
- 10 . クロス集計
- 11 . 2 乗検定と連関係数
- 12 . 3 つ以上の平均の比較 (分散分析)
- 13 . 記述統計の確認
- 14 . 統計的検定の応用
- 15 . まとめ

評価

授業内課題の提出と出席は評価の前提条件である。

筆記試験（統計計算と検定が中心）を100点満点により評価を行う。
所定の試験で合格に達しない場合は、夏期休業期間に再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 吉田寿夫 『ほんとうにわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』 北大路書房

【電卓】 計算とメモリ機能（MRとMCが別ボタン）を備えた大きめのサイズの電卓を用意すること(毎時使用します)

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう (相関係数)
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 (1)：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう (クロス集計表と 2検定)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	増田 早哉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう (相関係数)
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 (1)：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう (クロス集計表と 2検定)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう (相関係数)
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 (1)：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう (クロス集計表と 2検定)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学情報処理法		
担当教員名	増田 早哉子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科学として心理学が成り立つためには、実験や調査などを通じて知り得たことが客観性を持った事実であることを明らかにする必要がある。そのために、心理学の研究においては統計解析が非常に重視されるのである。また、実際の心理学の研究では、データ解析にはコンピュータやアプリケーションが用いられており、その使用は避けては通れないものである。全ての受講生が既に履修している必修科目「心理統計法」で学んだ様々な統計的方法について、パソコンを使って実習することで、知識の定着やより深い理解を促す。統計解析を習得するうえで、統計の考え方の基礎をきちんと理解することはもちろん大切であるが、実際にデータの解析を試みる練習も不可欠である。具体的には、実際のデータをどのように処理するか、データの水準に応じてどのような解析方法を選択すべきかといった、より実践的なデータ解析と結果の整理の方法を身につけることを目標とする。分析ツールとしては、代表的な表計算ソフトであるMs-Excelを使用する。

内容

1. 尺度の水準と解析方法の選択 (質的データと量的データ)
2. グラフで表現してデータの特徴をつかもう (表とグラフの作成)
3. 心理学研究における表やグラフによるデータの表示を学ぼう
4. 統計処理の基本：平均値、度数分布、標準偏差を計算する
5. 標本調査における平均値の信頼性区間について学ぼう
6. 2項目間の関係を調べよう (相関係数)
7. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のない t 検定
8. 2つの平均値に差があるか調べよう：対応のある t 検定
9. Ms-Excelの基本操作 (1)：ピボットテーブル
10. 2項目間の関連を調べよう (クロス集計表と 2検定)
11. 3つ以上のグループ間に差があるか調べよう：一元配置分散分析
12. 調査データの集計・分析
13. 同上
14. 同上
15. 同上

評価

レポート50点+授業内での課題50点によって評価を行い、60点以上を合格とする。実習なので、毎回の授業に出席すること。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	綿井 雅康、石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 長さの錯視
 - (2) 既有知識が文章理解に与える影響
 - (3) 囚人のジレンマ
 - (4) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (5) 心的回転
 - (6) パ°-サルパ°-ス
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	鶴木 恵子、石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1) 長さの錯視
 - (2) 既有知識が文章理解に与える影響
 - (3) 囚人のジレンマ
 - (4) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (5) 心的回転
 - (6) μ° -サルパ $^{\circ}$ -ス
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点 \times 5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	風間 文明、石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1) 長さの錯視
 - (2) 既有知識が文章理解に与える影響
 - (3) 囚人のジレンマ
 - (4) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (5) 心的回転
 - (6) パ°-サルパ°-ス
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	平田 智秋、石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続で行う。
 - (1)長さの錯視
 - (2)既有知識が文章理解に与える影響
 - (3)囚人のジレンマ
 - (4)集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (5)心的回転
 - (6)パ°-サルパ°-ス
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点×5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	池田 まさみ、石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1) 長さの錯視
 - (2) 既有知識が文章理解に与える影響
 - (3) 囚人のジレンマ
 - (4) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (5) 心的回転
 - (6) μ° -サルベ $^\circ$ -ス
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点 \times 5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理学基礎実験		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理学統計法」「心理学情報処理法」とも関連する。各種心理学の実習授業や4年次必修「卒業研究」を履修するための基礎力を培う。

科目の概要

受講生は少人数のグループに分かれて、グループごとに決められたテーマについて実験や観察などの実習を行い、得られたデータを集計・解析し、レポートにまとめ提出する。授業時間開始時に実験の説明を受けた後は、学生自身が実験者・実験協力者の役割を担って、実験の最初から最後までを遂行する。さらに実験から得られたデータをグループごとにまとめて検討し、各自が実験レポート作成を行う。レポート作成には、授業時間以外に学生が主体的に取り組むことが求められる。

学修目標

- ・心理学の実験の施行及び結果の解析について学ぶ。
- ・心理学のレポートの書き方を学ぶ。

内容

1. ガイダンス：実験実習における注意事項とレポートの書き方
2. 実験実習：各実験の実施と結果の整理を原則として2週連続して行う。
 - (1) 長さの錯視
 - (2) 既有知識が文章理解に与える影響
 - (3) 囚人のジレンマ
 - (4) 集中度と瞬目回数との関連の検討
 - (5) 心的回転
 - (6) μ° -サルズ μ° -ス
3. レポート講評：6つの実験それぞれのレポート提出後、担当した教官がレポートの講評を行う。

* 各実験課題について、実施、結果の整理、レポートの講評を行う。

* 約20人で1班となり、分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各実験課題についてのレポート (各20点 \times 5 = 100点) により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

ガイダンス時にテキストを配布する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80 点と平常点 20 点により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	伊藤 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80 点と平常点 20 点により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80 点と平常点 20 点により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80 点と平常点 20 点により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す（課題の詳細は担当教員の指示による）。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80 点と平常点 20 点により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	心理検査法基礎		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目で、研究法・演習・実習領域の科目である。心理学の各分野における代表的な諸検査を理解し、その技法を学ぶ。「心理学検査法実習」や「発達教育相談演習」などと関連が深い。

科目の概要

- ・検査の説明：概要、考え方、実際の使い方、注意点などの解説。
- ・検査の実施
- ・検査結果の集計、解釈、討論、講評

ただし、それぞれのグループの進行や内容は扱う検査によって異なるので、各検査担当の教員の指示にしたがうこと。

学修目標

- ・検査という測定方法の目的と意味、注意点、限界と問題点を理解し、その実施技法を習得する。
- ・検査の解釈方法について習得し、検査結果の臨床的な場での解釈と利用について学ぶ。

内容

6人の教員で担当する。

受講生は小人数のグループに分かれて、グループごとに決められた分野の検査について学ぶ。

具体的な流れは以下の通り。

- 1) ガイダンス：各種心理検査の基礎知識と検査実施における注意事項の確認
- 2) 検査の実施：検査の実施と結果の整理を原則として3週連続して行う。
 - 取り上げる予定の検査は、以下の通りである。
 - ・ウェクスラー式知能検査
 - ・新版K式発達検査
 - ・投影法(バウムテスト)
 - ・S T A I 状態・特性不安検査
 - ・F F P Q 性格検査
 - ・内田クレペリン作業検査 …… など
- 3) まとめ：各検査ごとに課題提出後、担当した教官が講評を行う。

* 各検査それぞれについて、実施、結果の整理、まとめを行う。

* それぞれ担当の教員が課題を課す (課題の詳細は担当教員の指示による) 。

* グループに分かれて実習を行うため、実験の順番は班により異なる。

評価

各検査についての課題 80 点と平常点 20 点により評価する。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

担当教員ごとに授業内で指示する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識が求められるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定 (2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定 (t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 (因子分析)

評価

期末レポート50点、中間テスト30点、授業内の課題10点、平常点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。

科目名	データ解析法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、人間発達心理学科の専門科目であり、研究法・実習科目の1つである。履修にあたり、統計の基礎知識が求められるので、心理統計法、心理学情報処理法の単位取得済みであることが必要である。

統計解析ソフトSPSSを用いた実習を通して、実験や調査で収集されたデータの集計、解析方法を学習する。統計解析専門ソフトをいかした、より複雑な分析方法として、多変量解析の1つである因子分析の実施方法も学習する。PC実習室を使用するため、希望者多数の場合は初回の授業で選考を行う。

学修目標

- ・ SPSSの使用方法をマスターする。
- ・ データの性質に応じた適切な分析方法の選択、分析結果の読み方、解釈の仕方を身につける。

内容

SPSSを用いて以下の分析方法について学習する。練習問題などでSPSSの操作方法を学習した後に、その技術をいかして実際のデータの集計・分析を行う形で授業を進めていく予定である。

- (1) SPSSの基本操作
- (2) データの整理・要約 (平均値と標準偏差)
- (3) 質的データの集計 (単純集計と標準偏差)
- (4) 新しい変数の生成
- (5) 統計的検定: 質的データの検定 (2検定)
- (6) 2つの平均値の差の検定 (t検定)
- (7) 相関係数
- (8) 分散分析
- (9) 心理尺度の処理
- (10) 多変量解析 (因子分析)

評価

期末レポート50点、中間テスト30点、授業内の課題10点、平常点10点により評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始後に指定する。必要に応じて資料を配布する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理実験に関わる一通りの過程を実習する。

すなわち、(1)仮説をたて、(2)実験を計画し、(3)データを取り、(4)データを解析し、(5)報告書にまとめ、(6)口頭でも報告する。

これらは卒業研究の作成に必要な基礎知識でもある。

各自が卒業研究のテーマを見つけるきっかけにしたい。

科目の概要

5週を単位に3種類の実験を行う。

それぞれについて仮説をたて、データを取り、統計解析して、結果をレポートにまとめる。

学修目標

目標とするのは、(1)心理学的な問題設定の能力、(2)素データを見抜く眼力、(3)統計手法を用いたデータの吟味、そして(4)文章作成能力の涵養である。

これらを通じて人間の心の不思議な働きや、心理学実験の面白さを実感する。

内容

本演習では、自らが実験者および実験参加者となり、体験を通して、人間の情報処理のメカニズムを考えます。

受講者および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更になることがあります。

- 0 1 . 心理学実験について ガイダンス
- 0 2 . 視知覚に関する実験：解説
- 0 3 . 視知覚に関する実験：測定
- 0 4 . 視知覚に関する実験：解析
- 0 5 . 注意に関する実験：解説
- 0 6 . 注意に関する実験：測定
- 0 7 . 注意に関する実験：解析
- 0 8 . 視知覚と注意に関する実験のまとめ (グループでの発表)
- 0 9 . デザインと印象評定：解説
- 1 0 . デザインと印象評定：測定
- 1 1 . デザインと印象評定：解析
- 1 2 . 記憶に関する実験：解説
- 1 3 . 記憶に関する実験：測定
- 1 4 . 記憶に関する実験：解析

15. 印象評定と記憶に関する実験のまとめ（グループでの発表）

評価

授業時の小課題30点、レポート課題50点、口頭発表20点の計100点で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	心理学実験実習		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「研究法・実習科目」における選択必修科目。心理学研究法のひとつに「実験」がある。その実験を作成する技法として、今回Visual Basicによる「プログラミング」を学ぶ。単に技法を習得するだけでなく、実験プログラムの作成を通して、実験デザインを理解すると同時に、研究を「論理的に組み立てる」力を身につけてほしい。

科目の概要

- 1) 自ら被験者となって、さまざまな心理学実験（コンピュータ制御による実験）を体験する
- 2) 実験デザイン（設計、データの種類と収集法など）について学ぶ
- 3) 自ら作成した実験プログラムを用いて、データの収集、解析、考察を行う

学修目標

- 1) 「心理学実験」に慣れ親しむ・「プログラミング」に慣れ親しむ
- 2) ものごとを論理的に考える・組み立てる力を身につける
- 3) 心理学的な視点（問題・仮説を設定する力）を身につける
- 4) 実験をデザインする力（科学的に検証する力）を身につける

内容

基本的な操作から、実験プログラムの作成まで、順を追って、プログラミングの技法を習得する。

習得過程において、学生は自らが実験者および被験者となり、体験を通して心理学実験のあり方を学ぶ。

0 1 . ガイダンス：研究の手順は、料理の手順と似ている!?

0 2 . Visual Basicの基本操作法

0 3 . Visual Basicの基本操作 描いてみよう

0 4 . Visual Basicの基本操作 プロパティを使いこなす

0 5 . Visual Basicの基本操作 メソッドを使ってみよう

0 6 . 実験してみよう 印象評定

0 7 . Visual Basicの基本操作 変数の設定、ユーザー定義プロシージャ

0 8 . Visual Basicの基本操作 条件文、乱数

0 9 . Visual Basicの基本操作 繰り返し文、配列

1 0 . 実験してみよう 記憶

1 1 . 実験プログラムを制御するために 配列のランダム化

1 2 . 実験プログラムを制御するために キー押し反応

1 3 . 実験プログラムを制御するために 時間制御

1 4 . 実験プログラムを制御するために データの記録・ファイルの保存

1 5 . 実験してみよう 視覚探索課題

受講者数および授業の進捗状況により、実験内容およびスケジュールは若干変更することがある。

評価

プログラミングの基礎課題30%・応用課題40%、実験レポート・発表等30%の計100%で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

プリントを配布する。参考図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	社会調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習は、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、それを習得することを目指す。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても学習する。なお、データの分析にPC実習室を利用するため、受験者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は、初回の授業で先行を行なうので、必ず出席すること。

内容

調査法に関する講義と小グループに分かれての実習を並行して行なう。実習は、調査テーマに関わる心理特性を測定する心理尺度項目を作成する調査を行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、授業内で調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 心理尺度項目の校正
14. 仮説の検討例 (相関分析、 χ^2 検定など)
15. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習形式なので出席は重要である。特に、

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

科目名	社会調査法		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

質問紙を使った調査法は、実験法や観察法などと並び、心理学の研究において頻繁に用いられる重要な研究方法の1つである。調査法の特徴として、多数の調査協力者に質問紙に回答してもらい、得られたデータを統計的に処理し、一般的傾向を導き出そうとする点が挙げられる。本実習は、小グループに分かれて、調査テーマの設定、質問紙の作成・実施、収集したデータの集計と統計解析、調査結果に関する報告書の作成という調査研究の一連の流れを体験し、それを習得することを目指す。また、調査テーマに関わる心理特性を的確に測定するための心理尺度項目を作成することによって、心理学研究で扱う抽象的な概念をどのように測定するかについても学習する。なお、データの分析にPC実習室を利用するため、受験者数の上限を50名とする。希望者多数の場合は、初回の授業で先行を行なうので、必ず出席すること。

内容

調査法に関する講義と小グループに分かれての実習を並行して行なう。実習は、調査テーマに関わる心理特性を測定する心理尺度項目を作成する調査を行なう。与えられたテーマに関連した尺度項目、調査用紙を作成してもらい、授業内で調査を実施する予定である。

1. 質問紙調査法の概要
2. 標本抽出の方法
3. 調査テーマの設定
4. 心理尺度項目の作成 (1)
5. 心理尺度項目の作成 (2)
6. 心理尺度項目の概念妥当性を検討する方法
7. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (1)
8. 心理尺度項目に関する調査用紙の作成 (2)
9. 心理尺度項目に関する調査の実施
10. データの整理方法
11. 尺度の信頼性・妥当性の検討
12. 項目分析の方法
13. 心理尺度項目の校正
14. 仮説の検討例 (相関分析、 χ^2 検定など)
15. 仮説の検討例 (t検定、分散分析など)

この授業では統計的処理を行なうが、統計を学ぶ授業ではなく、統計を使って処理をすることを目的とした授業である。各自統計の復習をしながら、授業に参加してほしい。

評価

授業中の課題40点、最終レポート60点で評価し、60点以上を合格とする。実習形式なので出席は重要である。特に、

グループで作業を行うことが多くなるので、欠席や非協力的な態度などで、他のメンバーに迷惑をかけないようにすること

。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

鎌原雅彦他 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房

科目名	心理検査法応用		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理検査基礎実習」の応用となる科目である。「臨床心理学概論」「精神保健概論」との関連が強い。

科目の概要

心の状態や問題について総合的な理解・介入を行うために、情報収集する方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、報告書の書き方を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標

- ・心理検査の実施、結果の分析を学ぶ。
- ・心理検査の報告書の作成方法を学ぶ。

内容

- 1 . 心理査定とは何か
- 2 . 質問紙法MMPIの実施
- 3 . 質問紙法MMPIの結果の整理と解釈
- 4 . 質問紙法の事例検討
- 5 . 知能検査の復習 (学生発表)
- 6 ~ 7 . 事例検討 : 知能検査の結果から子どもの特性を理解する
- 8 . 描画法の復習 (学生発表)
- 9 ~ 1 0 . 事例検討 : 描画法を通して内的世界を理解する。
- 1 1 . 箱庭療法の復習
- 1 2 ~ 1 3 . 箱庭作品による心理的変容を理解する。
- 1 4 . テストバッテリーの総括
- 1 5 . まとめ

* 授業期間に箱庭を作成することが求められる。

* 学生が既に習得した心理検査について発表を行う。

評価

4種類のテーマに関する提出物 (25点 × 4) により、総合的に評価する。60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

科目名	心理検査法応用		
担当教員名	森崎 ひろみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「心理検査基礎実習」の応用となる科目である。「臨床心理学概論」「精神保健概論」との関連が強い。

科目の概要

心の状態や問題について総合的な理解・介入を行うために、情報収集する方法として、心理検査がある。まず、心理査定とは何かといった概論の後、臨床現場で用いられることの多い代表的な心理検査を受講生自身が実施し、基本的な技法、判定結果の見方、報告書の書き方を身につける。より実践的な理解を深めるために、事例を中心に学ぶ。

学修目標

- ・心理検査の実施、結果の分析を学ぶ。
- ・心理検査の報告書の作成方法を学ぶ。

内容

- 1 . 心理査定とは何か
- 2 . 知能検査の復習
- 3 ~ 4 . 事例検討：知能検査の結果から子どもの特性を理解する
- 5 . 描画法の復習
- 6 ~ 7 . 事例検討：描画法を通して内的世界を理解する。
- 8 . ロールシャッハテストの復習
- 9 ~ 1 0 . 事例検討：投影法により精神疾患を理解する。
- 1 1 . 箱庭療法の復習
- 1 2 ~ 1 3 . 箱庭作品による心理的変容を理解する。
- 1 4 . テストバッテリーの総括
- 1 5 . まとめ

*履修前に箱庭を作成することが求められる。

評価

4種類のテーマに関する提出物 (25点 × 4) により、総合的に評価する。60点以上を合格とする。実習授業のため、遅刻・欠席は厳禁である。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は指定しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

科目名	行動観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。

学修目標

- ・観察法の種類とそれぞれの技法について説明できる
- ・観察法の各技法を用いて行動観察ができる
- ・グループでの観察を計画し、結果の報告ができる

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。

- ・映像を用いた実習
- ・グループで実地観察・発表
- ・期末レポート用行動観察

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%)。合格点は100点換算で60点。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[推薦書] 中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

科目名	行動観察法		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学研究法・演習・実験 専門科目

科目の内容

日常生活の場や臨床的な場で人の行動を観察することは、人をよく理解するための大事な方法の一つである。心理学では、行動観察法は人の行動の意味、人と人の関係、発達の過程その他を知るために、多くの領域で使われる。人の行動を観察するというのは、誰でもできるように、実はしっかりした訓練がないとうまくできない。この技法を学び実習する。授業や卒論にだけでなく、将来臨床や実践の場で仕事をする上での基礎技法としても役立つ力をつけることを目指す。

学修目標

- ・観察法の種類とそれぞれの技法について説明できる
- ・観察法の各技法を用いて行動観察ができる
- ・グループでの観察を計画し、結果の報告ができる

内容

情報処理室でDVD映像を使つての実習、および実地観察を行う。

- ・映像を用いた実習
- ・グループで実地観察・発表
- ・期末レポート用行動観察

評価

各実習のレポート (60%)、期末レポート (30%)、平常点 (10%)。合格点は100点換算で60点。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[推薦書] 中澤潤也「心理学マニュアル観察法」北王路書房

科目名	カウンセリング技法入門		
担当教員名	鶴木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

「カウンセリング基礎 」や「カウンセリング基礎 」の応用科目である。

科目の概要

実践的な演習を通して、カウンセリングの技法を習得することをねらいとしている。DVDによる映像教材及びロールプレイを行うことで、カウンセリング技法を復習する。その後、受講生同士がペアとなり、授業時間以外で試行カウンセリングを行う。録画したDVDと発話を逐語録としたものをもとに、クラスでディスカッションを行う。

学修目標

- ・カウンセリングの擬似的体験を通して、カウンセリング技法の向上を目指す。
- ・DVDや逐語録により、自分や他者のカウンセリング技法を客観的に分析し、改善点を見出す。

内容

1. ガイダンス

2～5. カウンセリング技法の復習

6～14. 試行カウンセリングの実践と討議

15. まとめ

*2人1ペアとなり、授業時間外で試行カウンセリングを2回行うことが求められる。施行後は、逐語録を作成し、授業時間内に発表を行う。各ペア1回は発表となる。クラス全体での討議により、受講生のカウンセリング技術の向上を目指す。

評価

提出物（50点）及び期末試験（50点）により評価を行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は特に指定しない。推薦書は授業中に適宜紹介する。

科目名	発達・教育相談		
担当教員名	海野 千細		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい：発達心理学の研究法・実習領域の科目である。事例やロールプレイングを通して、教育相談の手順や発達障がい児への対応の仕方などについて理解を深める。

目標：発達・教育相談に関する基本的な知識をみにつけ、発達・教育相談に携わるものとしての基本的な姿勢を身につける。

概要：不登校やいじめなどの事例や問題を抱える子どもたちへの相談場面などについて、ロールプレイングなどを通して理解する。また、事例の中で、発達・教育相談の技法を習得するのみならず相談担当者としての資質も含めて総合的に学習する。なお、相談活動に役立つ実践的な方法として、エンカウンターグループやプレイセラピー、描画法などの臨床心理学的手法も取り入れたいと考えている。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

注意 あらかじめ、学科専門科目の「教育相談」を受講しておくことが望ましい。本講義は、ロールプレイなど参加型の講義形態を取る。そのため、受講生には積極的な参加態度を求める。

1	オリエンテーション
2	エンカウンターグループ
3	面接練習基礎
4	面接練習実践 子ども編
5	面接練習実践 子ども編
6	面接練習実践 子ども編
7	面接練習実践 子ども編
8	子どもの遊び
9	芸術療法
10	教育相談室を作る
11	面接練習実践 親編
12	面接練習実践 親編
13	面接練習実践 教師編
14	面接練習実践 緊急対応・地域連携編
15	まとめ

評価

授業中の参加態度や提出物35%、最終発表内容65%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかつ

た場合、レポートを課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】岡田守弘監修 『教師のための学校教育相談学』 ナカニシヤ出版 2008

菅野純 『教師のための学校カウンセリングゼミナル』 実務教育出版 1995

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日 (60時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修内容

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受け入れ先の評価 (A)、インターンシップレポート (B)、それに巡回指導 (C) に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが15点の計100点で、総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2,3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

10日(60時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修の内容

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点の計100点で総合的に判断して行う。60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特にない。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	発達支援活動		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門科目の発達領域および臨床領域で学んだ心理学の知識や技法を基礎として、支援活動の実践に取り組む科目である。

科目の概要

人間発達心理学科では、学科・学校を窓口として、大学周辺の県市教育委員会によるボランティア活動への応募取りまとめと相談を行っている。その他にも、多くの市区教育委員会から要請のあった学校教育ボランティア、社会福祉施設・団体等から要請のあったボランティア活動を随時紹介している。

発達支援活動とは、学科の学生が小中学校等で行う教育ボランティアや福祉施設等で行う各種ボランティア活動を通じて、1) 臨床・実践場面において、心理的側面から支援・援助活動に取り組む意義を理解するとともに、2) 人々との交流を深めるなかで、専門科目で学んできた心理学的な知見・理論・技法の理解を深化充実させることを目的とする。

学修目標

活動先において責任者の指示を厳守し、対象となる人々のために活動する。支援活動を通じて、自らの専門知識や技能の有用性と不足点を確認する。

内容

1. ボランティア活動への応募にあたっては、活動の趣旨・目的を十分に理解すること。
2. 実際に活動するにあたっては、活動における遵守事項や留意すべき点をふまえ、学校長など活動を要請する側の要望に沿うよう注意すること。
3. 活動を行うなかで、活動を通して学び理解したこと、大学で学習した事柄と実践的な活動をどのように結びつけたのか、さらには、大学で今後学習すべき課題は何かを、自省すること。
4. 活動の終了時には、活動全体を振り返り、交流してきた人々にとっての活動の意義や収穫、および、学生自身にとっての活動の意義や成果をまとめること。

評価

活動の合計時間が学科で定める時間等に達していることが評価の前提となる。

活動の概要および成果をレポートにまとめるとともに発表会を行う。活動受け入れ先の責任者(または担当者)から提出してもらう活動報告とともに、レポートや口頭発表にもとづいて、総合的な評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】学校教育ボランティアの場合：菅野純 『不登校 予防と支援Q & A 70』 明治図書

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本講義は、「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である（「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は可能な限り履修すること）。

科目の概要

企業が求めている人材とは、ビジネスマナー、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識とインターンシップの内容、インターンシップをする際の基本的な常識などについて指導する。

学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職活動に直結しないが、インターンシップを経験することで充実した就職活動が可能となる。

内容

1	ガイダンス (講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員
3	企業のインターンシップ1 情報系 (夢科情報、エム・エス・デー)
4	企業のインターンシップ2 出版系 (あさ出版、埼玉新聞社)
5	企業のインターンシップ3 営業・販売系 (東和エンジニアリング・丸正飯塚)
6	企業のインターンシップ4 外食・食品系 (ケンタッキー、スカイラーク)
7	企業のインターンシップ5 広告・印刷系 (興文堂、東急アド・コミュニケーション)
8	企業のインターンシップ6 金融系 (りそな銀行・むさし証券)
9	企業のインターンシップ7 化粧品 教育 (ウテナ、ウィズダム・アカデミー)
10	自治体のインターンシップ (和光市役所、新座市役所)
11	資生堂 Top Beauty Specialist 西島悦さんのメイク実演
12	ビジネスマナー講座1 服装、電話の受け方、挨拶、職場での態度など
13	ビジネスマナー講座2 言葉遣いの再確認、電話対応、メール、名刺の扱いのルールなど
14	尊敬語・謙譲語などの確認、自己PRの作成
15	自己PRの報告、レポートの作成

評価

レポートの内容 (60%)、グループワークやその報告の内容 (20%)、授業態度 (20%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、提示する。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

科目の概要

5日 (35時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2,3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。

科目の概要

5日 (35時間) 以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

学修内容

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。また、インターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。

内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味でからも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミクス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえることができる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたのだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。目標は社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を、自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容

1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60点 + 中間テスト30点 + 授業内の課題10点により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	社会心理学概論		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人間発達心理学科の必修科目であり社会心理学に関する入門科目である。コミュニケーションの心理学、対人社会心理学、人間関係の心理学、グループ・ダイナミクス、産業・組織心理学などの基礎となる。

社会心理学の「社会」とは他者がいる状況を意味する。私たちの日常生活は、ほとんどが他者のいる状況だといえる。したがって社会心理学は、日常生活の中で私たちが他者から受ける影響や逆に他者に与える影響を問題とし、そこに潜む法則性を明らかにしていく心理学の一領域といえることができる。「どうやったら人からもっと好かれるかしら?」「どうやったらあの人を説得できるかな?」「グループをうまくまとめたんだけど・・・」など、私たちが普段感じる疑問の中のいくつかはそのまま社会心理学の問題になり得るものである。本講義では、社会心理学の研究成果について日常的な現象と結びつけながら、わかりやすく解説する。目標は社会心理学のもつ人間観について理解を深め、習得した知識を、自分が実生活を視るときの視点として活用できるようになることである。

内容

1	ガイダンス：社会心理学とは
2	社会的認知(1)：ステレオタイプ
3	社会的認知(2)：原因を考える
4	対人関係(1)：他者を好きになる
5	対人関係(2)：対人魅力の規定因
6	対人関係(2)：対人関係の進展
7	対人行動(1)：他者を説得する
8	対人行動(2)：攻撃と援助
9	言語と非言語コミュニケーション
10	集団内での個人の行動
11	リーダーシップ
12	社会的ジレンマ
13	自己
14	進化の視点
15	まとめ

評価

期末テスト60点 + 中間テスト30点 + 授業内の課題10点により評価を行い、60点以上を合格とする。ただし受験資格として2/3以上の出席が必要である。合格点に達しない場合再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する。

科目名	コミュニケーションの心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門選択科目のうち初学者を対象とした科目である。人間関係の基礎となるコミュニケーションへの理解を深める。

科目の概要

コミュニケーション活動とは、メッセージを送る人と受け取る人との共同作業であり、メッセージという情報が表現され伝達され受容され理解されるというプロセスからなるものである。このプロセスのなかで、人間がどのような行動を行っているのか、心や行動にどのような影響を及ぼすのか、について明らかにされている心理学的なメカニズムや法則性を中心に述べる。私たちが普通に行っている行動に影響を及ぼす心理的な要因について、論理的かつ分析的に理解する知識を身につけるとともに、行動の潜在的な意味や目的を客観的に考える態度や視点を養ってほしい。

学修目標

評価基準ともなる学習到達目標は、1)教科書の記述内容を理解しようと努力したか、2)コミュニケーション行動に関するメカニズムや法則性を理解したか、3)コミュニケーション行動に関する理論を日常生活での行動に適用して説明できるかである。

内容

- 1．コミュニケーション行動と心理学
- 2．対人コミュニケーションの成立
- 3．対人コミュニケーションの特徴
- 4．言語とコミュニケーション
- 5．言語コミュニケーションの特質
- 6．非言語メディアによるコミュニケーション
- 7．自己開示の概念と領域
- 8．自己開示が果たす機能
- 9．自己開示を規定する要因
- 10．自己呈示と社会的スキル
- 11．防衛的自己呈示と主張的自己提示
- 12．他者を動かすコミュニケーション (要請承諾・説得)
- 13．説得的コミュニケーションと態度変容
- 14．要請技法と心理的效果
- 15．まとめ

評価

授業内の小課題10点、期末テスト90点、の計100点満点により評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 深田博己著 『インターパーソナルコミュニケーション』 北大路書房

科目名	対人社会心理学		
担当教員名	塩田 伊都子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会心理学の中でも、特に他者との関係や相互作用に注目した科目である

科目の概要

恋愛関係を主とする親密な関係の構造と進展 (講義 1 , 2 , 3 , 4 , 5 , 6)

人の話を上手に「聴く」方法 (講義 7 , 8)

自己の要請を受け入れさせたり、他者の態度を変容させる方法 (講義 9 , 10 , 11)

他者に対する攻撃や援助に影響する要因 (講義 12 , 13 , 14)

学修目標

現実場面で役立つような社会心理学の知識を身につけることを学修目標とする

- ・親密な他者との関係を関係を客観的に見られるようにする
- ・他者とのコミュニケーションについての知識を身につける
- ・要請受諾や説得のメカニズムを理解する
- ・攻撃や援助に影響する要因を理解する

内容

1	親密な関係とは何か
2	恋愛関係の構造
3	恋愛関係の発展
4	親密な関係の葛藤
5	親密な関係の崩壊
6	親密な関係の喪失
7	ソーシャルスキル：話を聴く
8	ソーシャルスキル：非言語的コミュニケーション
9	要請受諾
10	説得
11	洗脳とマインドコントロール
12	攻撃
13	援助
14	ソーシャルサポート
15	まとめ

評価

各テーマごとの課題 (40%)、試験 (50%)、通常の授業態度 (10%)

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

ただし1/3以上の欠席は単位不認定とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。必要に応じてプリントを配布する

【推薦書】セレクション社会心理学 サイエンス社

不思議現象 なぜ信じるのか 北大路書房

対人社会心理学 重要研究集 誠信書房

科目名	人間関係の心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (公民)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

われわれは人を好きになったり嫌いになったりする。人に対して好意を感じることは人間関係を成立させるきっかけとなり、さらにその関係を親密な関係へと進めていく力を持つ。この、人を好きとか嫌いとか感じることを社会心理学では「対人魅力」と呼び、それにまつわる多くの研究がこれまで行われてきている。 本講義では、対人魅力を中心とした人間関係に関わる社会心理学的研究に基づいて、人間関係の形成、進展について理解することを目標とする。また受講を通じて、日常生活においてよりよい人間関係をつくるためにどのようなことが重要であるかを考えるきっかけとなることを目指す。

内容

1	ガイダンス
2	対人魅力とは何か
3	好意をいかにして測るか
4	好まれる性格
5	外見の美しさの効果
6	美しさの判断
7	自分と似ていることの効果
8	環境条件と魅力
9	相手から好かれることの効果
10	個人の内的状況
11	自己開示と好意
12	対人魅力と対人関係
13	対人関係の親密化
14	対人関係の進展・崩壊
15	まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に達しない場合再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	グループダイナミクス		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

グループ・ダイナミクスとは、集団およびその成員の行動に関する一般的法則を明らかにしようとする社会科学の1分野で、心理学では主に社会心理学においてその領域の研究が行われている。具体的には、集団の形成過程、集団内の地位・役割分化、集団規範への同調と逸脱、集団での意志決定、集団の生産性、リーダーシップなどの諸問題を研究対象とする。この授業では、グループ・ダイナミクスに関する様々な領域の研究知見について日常的な集団経験と照らし合わせながら、わかりやすく解説する。受講を通して、集団における人間の心理について理解を深めるとともに、教育組織、企業組織など実際の集団や組織にいかに応用できるかという実践的な観点も持てるようになることを目標とする。

内容

グループ・ダイナミクスの主要な研究領域について講義形式で解説する。また講義内容と関連のある模擬的実験や心理尺度なども実施する予定である。以下の内容を予定。

- (1) 集団とは何か
- (2) 集団の形成過程
- (3) 集団の構造
- (4) 集団規範
- (5) リーダーシップ
- (6) 集団意思決定
- (7) 集団と個人
- (8) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	産業・組織心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

産業・組織心理学とは、産業活動に取り組む人や組織で働くことに関する心理学の分野である。具体的には、仕事におけるモチベーション、職場における人間関係と意思決定、リーダーシップ、職場のストレスなどが対象になる。本科目では、動機づけのメカニズム、パーソナリティに関する理論、組織における人間の行動を明らかにしてきた社会心理学など、様々な心理学の領域における研究成果に基づいて産業活動における諸現象を明かにすることを目的とする。講義の中で学んだ理論が知識として蓄積されるだけでなく、現実の生活で活用していけるよう、実践的なワークやトピックなどを取り入れる予定である。

内容

1	産業・組織心理学とは何か? - ガイダンス -
2	仕事への動機づけ
3	職務満足に関わる要因
4	人事評価制度について
5	職場の人間関係と意思決定
6	職場集団におけるリーダーシップ(1)
7	職場集団におけるリーダーシップ(2)
8	職場におけるコミュニケーション
9	組織における協力と葛藤
10	職場のストレスとメンタルヘルス(1)
11	職場のストレスとメンタルヘルス(2)
12	自立とは何か?
13	キャリア発達の理論
14	キャリア・デザイン
15	まとめ

評価

試験70点+授業内での課題30点によって評価を行い、60点以上を合格とする。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する

科目名	キャリア心理学		
担当教員名	風間 文明		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

キャリアとは、強いていえば職業経歴という意味である。そこには、単純にどのような仕事の履歴を持っているかということだけでなく、ある仕事に就くまでに、そして仕事についての職業活動を通して、内面をどのように発達させてきたかという心理的な側面が多分に含まれている。キャリア心理学は、私たちがどうやって職業を選択しどうやって職業人となっていくのか、働くことの意味は何かといった問題を考える。本講ではキャリアに関わる心理学的知見についてわかりやすく解説し、必要に応じて実践的な内容も取り入れながら理解を深めていく。就職を目前に控えた受講生にとって、自身の職業生活のイメージを具体化する契機となることを目標とする。

内容

- (1) キャリアとは何か
- (2) 職業選択と進路決定
- (3) キャリア発達の理論
- (4) 職業とアイデンティティ
- (5) ワーク・モチベーション
- (6) 職業的社会化
- (7) 若者と就職
- (8) 就職活動
- (9) 現代社会の職業問題
- (10) まとめ

評価

期末テスト80点+授業内の課題20点により評価を行い、60点以上を合格とする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】指定しない。必要に応じて資料を配付する。

科目名	消費行動の心理学		
担当教員名	山下 倫実		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

人々は社会生活を維持するために、消費を行なっている。消費に関わる行動は、人々の日常生活に根づいているために、その行動の説明や予測については様々な研究者が関心を寄せてきた。消費行動は、人々が製品やサービスを取得し、消費し、処分する際に従事する諸活動と定義されており、様々な活動が含まれている。たとえば、なぜ人々はブランド物を選ぶのか、どのようにすれば購買や消費を促進できるのか、どのような広告が効果的かなどが消費行動の心理学で扱われてきたテーマである。本科目では、隣接学問分野にも配慮しつつ、社会心理学的手法を用いて明らかにされてきた消費行動研究を紹介することによって、消費行動を科学的に理解することを目的とする。

内容

1	消費行動とは何か? - ガイダンス -
2	マーケティングの重要性
3	なぜ人はブランド品を選択したいのか
4	なぜ買おうと計画していなかったものを購入してしまうのか
5	消費者はものの価格をどのように判断しているのか (1)
6	消費者はものの価格をどのように判断しているのか (2)
7	「口コミ」が購買意思決定に及ぼす影響 (1)
8	「口コミ」が購買意思決定に及ぼす影響 (2)
9	インターネットを通じた消費者間コミュニケーション過程
10	購買と購買後評価
11	競合相手の会社名やブランド名が堂々と表記される広告は効果的? (1)
12	競合相手の会社名やブランド名が堂々と表記される広告は効果的? (2)
13	悪質商法におけるコミュニケーションと消費行動
14	企業のリスク・コミュニケーションと消費行動
15	まとめ

評価

試験70点+授業内での課題30点によって評価を行い、60点以上を合格とする。出席が4/5に満たない場合、単位は取得できない。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業開始時に指定する

科目名	職場のメンタルヘルス		
担当教員名	鷓木 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

社会人のメンタルヘルスに関する内容であるため「健康心理学」や「インターンシップ」と関連性が高い。

科目の概要

産業領域でのメンタルヘルス・マネジメントの役割をテーマとする。社会で働く際に、どのようなことに気をつければ、こころのバランスを崩さずに、自分らしく生きていけるのかといった予防的内容も含む。またメンタルヘルスに不調を生じた人がいた場合に、どのような理解や関わりができるかといったことも学ぶ。受講生のうち希望者は、「メンタルヘルス・マネジメント検定 種」を受検することができる。

学修目標

- ・ストレスが心身に及ぼす影響を理解する。
- ・社会人が体験するストレス、及びストレス・マネジメントの重要性や方略を学ぶ。
- ・希望者は、メンタルヘルス・マネジメント検定 種の合格を目指す。

内容

1	メンタルヘルスケアの意義
2	メンタルヘルスケアの方針と計画
3	ストレスの基礎知識
4	メンタルヘルスの基礎知識
5	心の健康問題の正しい態度
6	セルフケアの重要性
7	ストレスへの気づき方
8	ストレスへの対処、軽減の方法
9	自発的な相談の有用性
10	活用できる資源
11	専門的相談機関の知識
12	メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定試験と解説)
13	メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定試験と解説)
14	メンタルヘルス・マネジメントの復習 (過去の検定試験と解説)
15	まとめ

評価

レポート (20点) と期末試験 (80点) を総合評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】大阪商工会議所編 「メンタルヘルス・マネジメント検定試験 公式テキスト 種セルフケアコース」 中央
経済社

科目名	家族心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

現在、日本の家族は少子化、高齢化、虐待、不登校、ホームレス、孤独死などなど多くの問題を抱えている。このような問題に対して、家族はどう立ち向かっていけばいいのだろうか。

家族は一定のルールのもとで相互作用や日常行動を行っている。家族は人間関係の家族システムであるともいえる。

一方個人が主体となる個人心理学的観点からすると、個人は家族システムのなかではどのように変容していくのであろうか、また、変容せざるをえないのだろうか。

現代家族の抱えている問題を明らかにし、次に家族システム論について考え、さらに個人心理学について説明する。最後に家族システム論と個人心理学とを融合させて新しい家族心理学を提示していくことなどを目的とする。

内容

1. 家族心理学の役割
2. 家族人生周期
3. 家族システム論
4. 家族内コミュニケーション
5. 家族関係の心理査定
6. 家族心理の深層構造
7. 社会の中の家族
8. 個人の中の家族イメージ
9. 家族療法の理論
10. 家族療法の技法
11. 家族療法の技法
12. 家族療法の技法
13. 夫婦療法の理論と技法
14. 家族療法の実際
15. 家族心理学の未来

評価

授業中の小レポートを30点、期末のレポートを70点。以上の合計60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書

亀口憲治 (20110)

改訂新版 家族心理学と特論

放送大学教育振興会

科目名	認知心理学		
担当教員名	池田 まさみ		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理専門科目における選択必修のひとつである。「心理学概論」での理解を踏まえて、本科目を履修する必要がある。

科目の概要

人間は五感を通して外界の情報を受け取り、その情報を脳で処理することにより、何らかの反応や行動に至っている。本講義では、その情報処理のプロセス (人間の記憶や注意、思考などの認知機能) について心理学的なモデルや理論を平易に解説する。授業では映像や簡易実験などを用いて、体験的に理解を深めると同時に、科学的視点を養うことを目指す。

学修目標

評価基準となる学習到達目標は、

- 1) 認知心理学の基礎となるモデルや理論について、日常的な行動との対応を説明できるようになること
- 2) 実証的な認知心理学研究法を理解すること

学生は自身の卒業研究におけるデザイン (研究方法、実験計画) など意識しながら学んでほしい。

内容

- 0 1 . ガイダンス
- 0 2 . 認知の神経的基盤
- 0 3 . 視覚の神経的基盤
- 0 4 . 視覚パターン認知 - 視覚の初期・中期過程
- 0 5 . 視覚パターン認知 - 視覚の後期過程
- 0 6 . 認知心理学研究法
- 0 7 . 注意 - 選択的注意
- 0 8 . 注意 - 注意と記憶
- 0 9 . 記憶と学習 - 記憶の構造と理論
- 1 0 . 記憶と学習 - 記憶のプロセス
- 1 1 . 知識表現 - 意味ベースの知識表現
- 1 2 . 知識表現 - 知覚ベースの知識表現
- 1 3 . 思考と言語 - 演繹的推論
- 1 4 . 思考と言語 - 帰納的推論
- 1 5 . 総括

上記の内容と順番は受講人数や理解の進度に応じて変更することがある。

評価

中間試験40%、期末試験60%の計100%で評価を行う。

中間試験は課題（小レポート等）に変更することもある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書・推薦図書は授業時に適宜紹介する。

科目名	性格心理学		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

人間発達心理学科における生活科目領域の科目である(他学科開放あり)。心理学の初学者を対象とし、人間理解の基礎となるパーソナリティへの理解を深める。

【科目の概要】

なぜ人には「性格」というものがあり、それはどのようなことに影響され、どのように形成されるのか、自分のあるいは他人の性格を変えることはできないか、などといった事柄について学んでいく。具体的には、まず類型論と特性論による性格理論を概観すると同時に、遺伝と性格との関係、環境や文化と性格との関係など性格心理学の基本的な理論について学んでいく。

【学修目標】

性格に関する諸理論や性格が形成される過程について学び、自分および他者に対する理解を深めることで心理学的な基礎知識を身につける。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	性格とは何か？～イントロダクション
2	性格の見分け方 ～類型論
3	性格の見分け方 ～特性論
4	性格はどうやって決まる？～遺伝と性格
5	性格の違いはどこからくる？～家族と性格
6	性格の違いはどこからくる？～兄弟と性格
7	中間まとめ
8	性格の違いはどこからくる？～環境/文化と性格
9	性格は変えられる？～ライフサイクルと性格
10	性格は変えられる？～地位/役割と性格
11	性格は変えられる？～適応/不適応と性格
12	好かれる性格, 困った性格とは？
13	病気になりやすい性格とは？
14	性格心理アセスメント～性格をどのように測定するか？
15	総合まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】清水弘司著 『はじめてふれる性格心理学』 サイエンス社 1998

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	食の心理学		
担当教員名	岡村 佳子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.科目の性格：発達相談において、子どもの食の問題を考えていくことが重要である。また、女性のカウンセリングにおいては、産む性を引き受けている女性の心理を食行動の面から理解することも重要である。それらに加えて、食を通じた人と人との関係の発展を理解していく。
- 2.科目の概要：現代は文化や文明が発達し、その恩恵を受けて日常生活が展開されている。しかし、女性の生理学的な問題についての理解は十分なされないまま生活していることが多い。そのため、問題行動をすべて、メンタルな問題にしてしまうことがよくある。メンタルな問題の発生を日常の食行動に起源をもとめることができるかもしれない。このようにして、心理学を日常の生活や行動と結びつけてみる時、最も身近に取り上げられるのが、食事の問題である。この授業では、さまざまな観点から、食事と人びとの心の関係を探求していく。
- 3.学修目標：自分の生理について理解し、食生活が健全に行われるようになること。また、産む性を引き受けていくための食生活についても理解すること。

内容

1. 基礎体温と食事について。
2. 女性の生殖と飲食の関係
3. 飲食のメカニズム
4. 心理テストにあらわれる基礎体温の影響。
5. (1) バウム テスト
6. (2) パーソナリティ インベントリー
7. (3) YGテスト
8. (4) PFスタディ
9. 個人差と体質
10. 食事を作る人と食べる人 (例：母と子) の関係を探る。
11. (1) 自我を育てる食事
12. (2) 思春期の食事
13. (3) 共食の意味
14. 社会や文化が人間の食事や健康意識に及ぼす影響
15. まとめ

評価

授業中の小レポートなど平常点30点,期末のレポート70点で評価する。
合計で60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書

- 【推薦書】A.W. ローグ 木村定訳 『食の心理学』 青土社 【所蔵無】
二木 武他編 『小児の発達栄養行動』 医歯薬出版 493.91/S
D. ラプトン 武藤隆他訳 『食べることの社会学』 【所蔵無】

科目名	身体運動の心理学		
担当教員名	平田 智秋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

心理学科の選択科目である。

心や意識，記憶や性格は箱に入って固定されている訳ではなく，

身体運動による環境との相互作用から立ち上がるダイナミックな現象であることを感じ取ってほしい。

「こころだって，からだ」なのである。

科目の概要

毎週1つのトピックについて，実習を交えながら講義を進める。

毎回，授業後に短いエッセイの提出を求める。

次の授業では優れたエッセイを紹介し，復習と更なる学びの材料とする。

学修目標

身体と心，脳に関する話題を概観しながら，人間を観る眼をより柔軟にしたい。

心について深く考えるには，身体運動の基礎知識が不可欠である。

1)身体が動く仕組み（筋骨格系から脳までの機能と構造），2)運動制御と運動学習の仕組み，3)身体運動と心理学との関わりを学び，改めて人間を見直し，心の多様さについて考える。

内容

進度に応じて新たな話題を盛り込むが，昨年度の授業内容とキーワードは以下の通り：

1. イントロダクション（心と身体と環境とは「くっついて」いる。心のくっつける働きと分ける働き）
2. 骨の構造と筋肉の動き：筋肉のつき方，股関節の理解，二足歩行の進化学
3. 力を発揮する仕組み：腕ずもう必勝法，外力と反射，腱
4. カロリーの出し入れと動的平衡：カロリーの摂取と消費。分子生物学からみた「生きる」こと
5. 脳構造のイロハ：BrainVoyager Tutorを用いた脳構造の理解，脳の階層性，脳部位の概略，神経細胞
6. 脳の処理過程を楊枝で実習する：ニューラルネットでおやつ代計算
7. 脳の感覚運動系：運動野の階層，運動・感覚ホムンクルス
8. 環境とやり取りする脳：遠心コピー（自分でくすぐってもくすぐたくないのはなぜ？）
9. 気分・性格と運動：POMSで気分を測定，性格の特性論によるスポーツ参加者の分類，社会的学習理論
10. 運動と動機づけ：外発的vs内発的動機づけ，帰属と再帰属訓練（やる気とその維持）
11. 運動と記憶：記憶の分類，文脈干渉効果，記憶の定着過程（記憶が染み込むには時間がかかります）
12. 運動学習入門：運動学習の過程（「わかる」と「できる」は違うのです），フィードバックと汎化
13. 運動の発達：PHV年齢と最適な運動内容。幼児の運動能力と運動指導
14. ブランコ漕ぎの自由：振り子の等時性，ブランコは漕いでるようで漕がされている？
15. まとめ

純粋な講義でなく，簡単な実験や演習を折り込みながら授業を進める。各講義の後に簡単なエッセイを課すので，講義内容について積極的に考え，自分なりの考えをまとめることを求める。優れたエッセイは次回授業で紹介し，討議の材料にする。

評価

毎回の授業で短いエッセイの提出を求める。エッセイ50%と筆記試験50%を評価の対象とし，合計で60%以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】

ジャービス著，工藤和俊・平田智秋訳「スポーツ心理学入門」新曜社

その他の推薦図書については，授業の中で随時紹介する

科目名	健康心理学		
担当教員名	中村 有		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

健康心理学は、他の心理学から独立した雰囲気を持っています。しかし、「基礎心理学（学習理論）」を活用する点では他の応用心理学と変わりません。「臨床心理学」と同様の病を扱いながら違う手法を用いる点に注目してください。

科目の概要：

「健康心理学とは健康の維持・増進、疾病の予防・治療、健康・疾病・機能不全に関する原因・診断の究明、およびヘルスケア・システム（健康管理組織）・健康政策策定の分析と改善に対する心理学領域の特定の教育的・科学的・専門的貢献のすべてをいう」、この一読すると難解で複雑でと感じる学問は、一方では「ポジティブ心理学」と呼ばれます。「人のこのような悪い部分がうつ病を招く」ではなく「人はこのような良い部分があるからうつ病を防げる」という考え方が特徴です。

学修目標：

- 1) 「人は、潜在能力・治癒力・成長力があると信じる」という立場を理解する。
- 2) 上記1)を踏まえ、人の心身に隠れている素敵な部分を活かしてより良い存在へ成長させていく方法を習得する。
- 3) 日常生活の中で健康心理学を活かし、自他が抱える様々な難関・苦難をクリアできるようなポイントを見いだせる。

内容

講義は「健康心理学」という興味深い学問を初めて学ぶことになる皆さんに習得してもらうため、まず基礎的な考え方や理論を学んで貰います。その後、講義が深まるうちに「健康心理学」らしい非常に実践的な技法を学びます。

この内容は、学びが深まるにつれて理論と技術を一体に学ぶことができるようになっていきます。そんな風に講義が一連になっていますので、可能な限り全ての回に出席して下さい。

1	はじめに	オリエンテーション
2	健康心理学の意義	健康心理学という存在を考える
3	健康心理学の基礎理論	健康心理学を支える科学的な理論
4	健康心理学の各論	ストレスについて考える
5	健康心理学の各論	ストレスを科学する
6	健康心理学の各論	人格（性格）の理解を深める
7	健康心理学の各論	人格（性格）と健康の関係を考える
8	健康心理学の各論	ライフサイクルとライフスタイル
9	病気を考える	生活習慣病
10	病気を考える	心身症
11	健康を考える	予防
12	健康を考える	予防と促進
13	健康心理学の技法	心理アセスメント（人の健康を把握・理解する方法）
14	健康心理学の技法	心理的サポート（人の健康を支える・改善する方法）
15	おわりに	まとめ

評価

講義最終回に行われる“最終評価（筆記試験orレポート）”を評価の中心とします。

講義内容に応じて、重要な局面で“受講レポート”を提出して貰います。これも評価に含みます。

受講態度を多少加味します。

以上の3点を「受講レポート30～40%・最終評価60～70%」で配分して総合評価し、60点以上が合格になります。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 小林芳郎 編著『健康のための心理学』2006 保育出版社

【推薦書】 講義中に随時紹介します

【参考図書】 日本健康心理学会 編『健康心理学概論』2002 実務教育出版

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から、教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動の客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育心理学		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、学校教育の諸活動に活用しうる心理学的知識への理解を深めるための科目である。

科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

評価

期末試験：90点，授業内課題10点の計100点で、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	教育相談		
担当教員名	加藤 陽子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

【科目の性格】

発達心理学科の教育・保健領域の科目である。近年、学校現場で生じているさまざまな現象や発達と教育に関わる心理学的課題を抱える児童生徒に対して、教育相談に必要な基本的な知見を獲得する。また、実際どのように活動していくのかについて学ぶ。

教職過程科目の「教育相談」と同時開講とする。

【科目の概要】

教育相談の理論や技法等についての基礎的知識のみならず相談担当者としての資質も含め、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学習する。

また、学校現場において、児童生徒から相談を受けた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。

【学修目標】

教育相談の意義や理論、知識や技法等を中心にその教育実践についても学ぶ。

内容

予定する講義内容は以下の通りである。

1	教育相談の歴史と今日的課題
2	学校教育における「教育相談」の位置づけ・役割
3	相談援助における児童生徒の理解
4	児童期的人格形成と適応
5	思春期・青年期的人格形成と適応
6	教育相談・援助の基本 カウンセリング理論
7	教育相談・援助の基本 カウンセリング技法
8	児童生徒の行動の理解と対応 不登校
9	児童生徒の行動の理解と対応 いじめ
10	児童生徒の行動の理解と対応 発達障害
11	児童生徒の行動の理解と対応 非行
12	教育相談の実際(事例から学ぶ) 校内連携
13	教育相談の実際(事例から学ぶ) 家庭・地域との連携
14	教育相談の実際(事例から学ぶ) 事件事故・災害時の緊急対応
15	まとめ

評価

授業中の提出物30%、試験70%により評価を行い、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大芦 治「教育相談・学校精神保健の基礎知識 第2版」ナカニシヤ出版 2008

【推薦書】岡田守弘監修 「教師のための学校教育相談学」ナカニシヤ出版 2008

有村久春著「キーワードで学ぶ 特別活動・生徒指導・教育相談」金子書房 2009

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	子どもの生活支援		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられている。他学科開放科目としている。

科目の概要：

子どもとは、形態的にも機能的にも成長発達の途上にあり、すべてが未完成であり、未熟であり、内外的環境の影響を受けて成長発達していく。ここでは特に乳幼児期の子どもを中心に、健全な成長発達を促進するための基本的な生活援助の知識と技術を学習する。また、子どもの未熟性から生じる健康障害に対する看護についても学習する。さらに、子どもを取り巻く社会資源など社会とのかかわりについても学ぶ。

学修目標：

- 1．乳幼児の子どもの心身の成長発達が理解できる。
- 2．乳幼児期の子どもの日常生活での養護が理解できる。
- 3．病気の子どもの看護が理解できる。
- 4．乳幼児の安全管理と応急処置が理解できる。
- 5．子どもを取り巻く社会の現状について、説明できる。

内容

講義、養護の実技、グループワークとプレゼンテーションにより展開する。授業では実技実習もあるため、受講生が多数の場合は、受講人数を制限します。

1	子どもと成長発達
2	子どもの成長・発達（形態機能の発達）
3	子どもの成長・発達（生理機能の発達）
4	子どもの成長・発達（脳神経・運動機能の発達）
5	乳児の生活と養護（だっこ授乳）
6	乳児の生活と養護（衣服着脱とおむつ交換）
7	乳児の生活と養護（沐浴）
8	幼児の生活と養護
9	子どもの病気と看護（小児感染症を中心に）
10	子どもの病気と看護（子どものよく見られる症状に対する看護）
11	グループワークプレゼンテーション（子どもの発達としつけに関するテーマ）
12	グループワークプレゼンテーション（子どもの育児環境と親に関するテーマ）
13	グループワークプレゼンテーション（子どもを取り巻く社会問題に関するテーマ）
14	乳幼児の事故と安全管理
15	乳幼児の応急手当

評価

授業への参加状況（20点）、学生のプレゼンテーション（30点）、レポート（50点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。

【推薦書】千羽喜代子、吉岡毅、長谷川浩道 『実習育児学』 日本小児医事出版

瀬江千史 改訂版 『育児の生理学 医学から説く科学的育児論』 現代社

日本外来小児科学会編著 『お母さんに伝えたい 子どもの病気ホームケアガイド』 医歯薬出版

科目名	養護概説		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校保健、 の学習を基礎として、養護教諭が行っている職務内容を理解し、養護教諭として諸活動を実践する能力を養うことを目指す。学修目標は 学校保健における養護教諭の職務を理解する。 養護教諭の活動に必要な実践力を身につける。

内容

1	学校教育・学校保健と関連法規について
2	養護教諭の歴史と職務内容の変遷について
3	養護教諭に関する法律・審議会答申について
4	養護教諭の職務について
5	健康診断の目的と計画立案について
6	健康診断の種類と測定方法について 1
7	健康診断の種類と測定方法について 2
8	健康診断の事後措置について
9	健康診断実施の工夫について
10	健康観察の実際と事後措置について
11	疾病管理の目的と実施について
12	子どもに多くみられる病気の理解と管理方法について
13	健康相談の実施について
14	養護教諭の行う健康相談について
15	まとめ

評価

筆記試験 (小テストを含む) 7 割、レポート 2 割、通常の授業態度 1 割により評価し、60 点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

新養護概説<第 6 版>編集代表 采女智津江 少年写真新聞社

科目名	学校保健		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。学校教育における学校保健の意義、学校保健の仕組みや基礎的事項について理解することを目指す。学校保健において大きな役割を持つ養護教諭の活動について重点をおいて講義を行う。学修目標として 学校教育における学校保健の意義や機能について理解する。 学校保健における基礎的事項について理解する。 学校保健における養護教諭の役割を理解する。

内容

1	学校教育と学校保健について
2	学校保健の意義と関連法規について
3	学校保健の領域構造と学校保健関係者について
4	学校保健計画の法的根拠と意義、内容について
5	学校における保健教育について
6	保健指導の進め方について
7	健康相談の意義と進め方について
8	養護教諭が行う健康相談について
9	健康観察の意義と法的根拠について
10	健康観察の機会と方法について
11	健康診断の意義と法的根拠について
12	健康診断の種類と項目について
13	健康診断の計画と実施について
14	健康診断の事後措置について
15	まとめ

評価

筆記試験(小テストを含む)7割、レポート2割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：養護教諭のための学校保健<第11版> 出井美智子他 少年写真新聞社

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	健康相談活動		
担当教員名	松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	免疫学		
担当教員名	扇元 敬司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理に関する免疫とアレルギーを扇元敬司著の教科書「わかりやすいアレルギー - 免疫学講義 (日本図書館協会推薦図書)」によって学ぶ。

科目の概要

免疫とアレルギー - について教科書項目に沿って解説する。さらにその後、要点とまとめをわかりやすくスライド (PowerPoint) で説明する。なお使用した「スライド」は講義終了後に学内ネットワーク [フォルダUドライブ] に開示して学習の参考に供する。

学修目標

免疫とアレルギー - の基礎を理解することを学修目標とする。

1. 高校で学んだ免疫とアレルギー - の知識を整理する。
2. 免疫とアレルギー - の歴史について理解する。
3. 自然免疫と獲得免疫について学ぶ。
4. 感染症とワクチンについて理解する。
5. 免疫異常とアレルギー - 型別について学ぶ。

内容

1. 部：生体防御・免疫システム。免疫学とアレルギーの歴史。
2. 自然免疫システム。
3. 免疫を担当する器官と細胞。
4. 獲得免疫システム。
5. サイトカイン・エフェクター細胞。
6. 感染症とワクチン・移植免疫と腫瘍免疫。中間まとめ
7. 部：免疫異常・アレルギー - 。エイズ・免疫不全症・自己免疫疾患。
8. アレルギー・アナフラキシー。
9. アレルギー対策・予防・検査法。
10. アレルゲン。
11. 花粉症・鼻アレルギー・眼アレルギー - 。
12. アトピー・アレルギー性鼻炎・蕁麻疹。
13. 小児アレルギー・気管支ぜんそく。
14. 食物アレルギー・環境アレルギー・シックハウス。
15. まとめ (職業アレルギー・心理免疫アレルギー)

評価

中間筆記試験 (40点)、期末筆記試験 (40点)、授業態度 (20点) によって評価をおこない、60点以上を合格とす

る。合格点に満たなかった場合は「再試験」を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】扇元敬司 著「わかりやすいアレルギー・免疫学講義」講談社（2007）

【推薦書】扇元敬司 訳，K.Vedhara・M.Irwin著 「心理免疫学概論」 川島書店（2008），

扇元敬司 著「やさしいバイオのための微生物学」講談社(2012)，

扇元敬司 著「バイオのための基礎微生物学」講談社（2002）

科目名	衛生学		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

主に感染症について講義する。疾病から免れ、健康を保持・増進し、生命を延長し、身体的・精神的機能を十分に発揮生きていくことはすべての人間の願いである。特に、養護教員を目指す学生は、微生物学についての正確な知識を必要とする。そのため感染症予防のため発生要因 (感染源、感染経路、および感受性者) と病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症、特にウイルス性疾患について詳しく講義する。

内容

1. 感染症の歴史
2. 感染症の発生要因 感染源
3. 感染症の発生要因 感染経路
4. 感染症の発生要因 感受性者 (抵抗力, 免疫)
5. 感染症の発生要因 予防接種
6. 病原微生物 概論 (病原性、毒力、発病量、抵抗性など)
7. 病原微生物 抗生物質と耐性菌
8. 病原微生物 ヒトと微生物の共存
9. 感染症 原虫と原虫症
10. 感染症 スピロヘータとスピロヘータ症
11. 感染症 細菌と細菌感染症 (赤痢、コレラ、大腸菌)
12. 感染症 細菌感染症 (結核)
13. 感染症 リケッチャとリケッチャ症
14. 感染症 ウイルスとウイルス症 (風邪、インフルエンザ)
15. 感染症 ウイルス感染症 (新型インフルエンザ、エイズ)

評価

期間中 4 回のペーパーテストによる (授業最終日に試験がある) 。

60% 以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【参考図書】村松宰、梶本雅俊編 『公衆衛生学 栄養科学シリーズ』 講談社

教科書は使用しない。

科目名	公衆衛生学		
担当教員名	鎌田 恒夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

主に感染症について講義する。疾病から免れ、健康を保持・増進し、生命を延長し、身体的・精神的機能を十分に発揮生きていくことはすべての人間の願いである。特に、養護教員を目指す学生は、微生物学についての正確な知識を必要とする。そのため感染症予防のため発生要因 (感染源、感染経路、および感受性者) と病原微生物の形態、性質、それらによってもたらされる感染症、特にウイルス性疾患について詳しく講義する。

内容

1. 感染症の歴史
2. 感染症の発生要因 感染源
3. 感染症の発生要因 感染経路
4. 感染症の発生要因 感受性者 (抵抗力, 免疫)
5. 感染症の発生要因 予防接種
6. 病原微生物 概論 (病原性、毒力、発病量、抵抗性など)
7. 病原微生物 抗生物質と耐性菌
8. 病原微生物 ヒトと微生物の共存
9. 感染症 原虫と原虫症
10. 感染症 スピロヘータとスピロヘータ症
11. 感染症 細菌と細菌感染症 (赤痢、コレラ、大腸菌)
12. 感染症 細菌感染症 (結核)
13. 感染症 リケッチャとリケッチャ症
14. 感染症 ウイルスとウイルス症 (風邪、インフルエンザ)
15. 感染症 ウイルス感染症 (新型インフルエンザ、エイズ)

評価

期間中 4 回のペーパーテストによる (授業最終日に試験がある) 。

60% 以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【参考図書】村松宰、梶本雅俊編 『公衆衛生学 栄養科学シリーズ』 講談社

教科書は使用しない。

科目名	看護学概論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。また、社会福祉主事任用資格取得に関連している科目でもある。

科目の概要：

看護の対象は、さまざまな環境の中で生活をしている人間である。看護では、対象の健康の回復あるいは増進をはかり、対象の欲求を充足することをめざす。ここでは、人間の健康と生活を理解し、人間が本来持っている自然治癒力の向上を目指すために、根拠に基づいた看護実践の基礎となる理論および看護の視点を学び、看護援助の基礎的知識を学習する。

学修目標：

- 1．看護の本質が理解でき、看護における安全安楽の意味が説明できる。
- 2．看護における観察の意味がわかる。
- 3．生活環境の調整と看護との関係が理解できる。
- 4．人間のニード充足のための看護援助が理解できる。

内容

*後期に「看護援助方法」の履修を予定している学生は、本科目単位を修得しておかないと、「看護援助方法」は履修できません。

1	看護の本質と看護の対象
2	人間の尊厳と健康
3	安全と安楽
4	看護におけるコミュニケーションの基本
5	看護における観察
6	看護過程
7	ライフサイクルと看護（小児期の看護）
8	ライフサイクルと看護（成人期・老年期の看護）
9	生活環境の調整と看護
10	ニードの充足と看護（栄養と食事）
11	ニードの充足と看護（排泄）
12	ニードの充足と看護（清潔）
13	ニードの充足と看護（運動）
14	ニードの充足と看護（休息と睡眠）
15	看護学概論のまとめ

評価

レポート（20点）、筆記試験（80点）により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に指示する

【推薦書】中桐佐智子・天野敦子・岡田加奈子編著 『最新看護学 学校で役立つ看護技術』 東山書房
坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の基本』 ニューヴェルヒロカワ
坪井良子・松田たみ子編 『考える基礎看護技術 看護技術の実際』 ニューヴェルヒロカワ
薄井坦子著 『科学的看護論』 日本看護協会出版会

【参考図書】V.Henderson著 湯楨ます・小玉香津子訳 『看護の基本となるもの』 日本看護協会出版会

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

- 1．バイタルサインズの意味が理解でき、正確に測定ができる。
- 2．フィジカルアセスメントが適切に行える。
- 3．感染防御の基礎について説明できる。
- 4．急性期の症状のある人の看護が説明できる。
- 5．苦痛軽減のための看護が説明できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサインズ（体温・脈拍）
3	バイタルサインズ（呼吸・血圧・意識）
4	バイタルサインズ測定実習
5	フィジカルアセスメント（総論）
6	フィジカルアセスメント（各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔）
7	フィジカルアセスメント（各論：胸部・腹部・四肢）
8	感染防御（基礎知識）
9	感染防御（滅菌消毒方法と汚染物の取り扱い）
10	感染防御実習
11	急性期の症状のある人の看護（発熱・腹痛・頭痛）
12	急性期の症状のある人の看護（嘔気嘔吐・呼吸困難）
13	急性期の症状のある人の看護（けいれん・意識障害・心肺停止）
14	苦痛軽減のための援助（電法）
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業への参加状況（10点）、レポート（20点）、筆記試験（70点）により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社

日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

【参考図書】犬塚久美子編著『ひとりで学べる基礎看護技術Q&A』 看護の科学社 492.9/H

科目名	看護援助方法		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

看護実践の基盤となる基本技術の方法と根拠となる知識を学ぶ。看護の対象である人間が置かれている状況を正しく把握し、適切な看護が実践できる基本的な看護技術、及び、感染防御や苦痛軽減のための技術を学ぶ。特に、養護教諭として学校現場で求められる基本的看護援助技術に重点をあてて学習する。講義と合わせて実習も行い技術の習得を目指す。

学修目標：

1. バイタルサインの意味が理解でき、正確に測定ができる。
2. フィジカルアセスメントが適切に行える。
3. 感染防御の基礎について説明できる。
4. 急性期の症状のある人の看護が説明できる。
5. 苦痛軽減のための看護が説明できる。

内容

講義のみではなく実習も行い、技術の習得を目指す。

「看護学概論」を修得していない学生は、この科目は履修できません。

1	看護技術とは
2	バイタルサインズ (体温・脈拍)
3	バイタルサインズ (呼吸・血圧・意識)
4	バイタルサインズ測定実習
5	フィジカルアセスメント (総論)
6	フィジカルアセスメント (各論：頭部・頸部・顔面・目・鼻・口腔)
7	フィジカルアセスメント (各論：胸部・腹部・四肢)
8	感染防御 (基礎知識)
9	感染防御 (滅菌消毒方法と汚染物の取り扱い)
10	感染防御実習
11	急性期の症状のある人の看護 (発熱・腹痛・頭痛)
12	急性期の症状のある人の看護 (嘔気嘔吐・呼吸困難)
13	急性期の症状のある人の看護 (けいれん・意識障害・心肺停止)
14	苦痛軽減のための援助 (電法)
15	看護援助方法のまとめ

評価

授業への参加状況（10点）、レポート（20点）、筆記試験（70点）により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田加奈子他編著『養護教諭・看護師・保健師のための学校看護-学校環境と身体的支援を中心に』 東山書房
「看護学概論」で使用した教科書も併せて使用する

【推薦書】江口正信他著『根拠から学ぶ基礎看護技術』 医学芸術社

日野原重明監修『バイタルサインの見方・読み方』 照林社

植木純・宮脇美保子『看護に生かすフィジカルアセスメント』 照林社

【参考図書】犬塚久美子編著『ひとりで学べる基礎看護技術Q&A』 看護の科学社 492.9/H

科目名	小児保健看護学		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：

人間発達心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。この科目の単位を修得しておかないと「養護実習」には臨むことはできない。

科目の概要：

子どもの看護として、ここでは特に、学童・思春期の子どもの健康問題に重点を置き、特徴的な感染症や慢性疾患を取り上げ、それらの病態生理や子どもの心理、看護援助を学習する。これらの学習を通じて、体調不良を訴えてくる子どもの支援や慢性疾患や障がいを持って学校に通学している子どもの支援について実践できる能力を養う。

学修目標：

- 1．学校感染症の特徴と看護について説明できる。
- 2．子どもの主なアレルギー疾患の特徴と看護について説明できる。
- 3．子どもの主な慢性疾患の病態と看護について説明できる。

内容

1	子どもの身体の解剖生理（筋骨格・目・耳・歯）
2	子どもの身体の解剖生理（内臓の生理機能）
3	子どもの健康状態の把握
4	学校感染症（第1種）
5	学校感染症（第2種）
6	学校感染症（第3種）
7	子どものアレルギー疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎）
8	子どものアレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシーショック）
9	子どもの腎疾患（糸球体腎炎・尿路感染症）
10	子どもの腎疾患（ネフローゼ症候群・尿検査）
11	子どもの心疾患（先天性心疾患）
12	子どもの心疾患（川崎病・不整脈と心電図）
13	子どもの糖尿病と肥満
14	子どもの眼疾患・耳鼻咽喉疾患
15	小児保健看護学のまとめ

評価

3回の筆記試験により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始後提示する。

【推薦書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K

加藤英治 『症状でみる子どものプライマリ・ケア』 医学書院

【参考図書】村田光範・浅井利夫編 『小児疾患生活指導マニュアル』 南江堂

加藤忠明・西牧謙吾・原田正平編著 『すぐに役立つ小児慢性疾患支援マニュアル』 東京書籍

坂井建雄・橋本尚詞 『ぜんぶわかる人体解剖図』 成美堂出版

科目名	救急処置活動		
担当教員名	齋藤 千景、布施 晴美、松野 智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-人間発達心理学科		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

職職員免許法施行規則による養護教諭の免許に必要な「養護に関する科目」に位置づけられる。養護教諭として適切な救急処置活動をするための知識と技術を学ぶ。基本的事項を学習したのち、児童生徒に多くみられる、内科的・外科的な疾患に対する救急処置の方法を学習する。心肺蘇生法や止血法・包帯法などの演習を行う。学修目標は 学校における救急処置の手順を理解する。 各症状における救急処置の判断と処置の方法を理解する。 救急処置の基本的技術を習得する。

内容

1	学校で行う救急処置の基本的な考え方について
2	救急処置の基本的な手順について 1
3	救急処置の基本的な手順について 2
4	学校で行う内科的症対に対する救急処置について（発熱・頭痛・腹痛など）
5	学校で行う内科的症対に対する救急処置について（けいれん・熱中症など）
6	学校で行う外科的症対に対する救急処置について（骨折・捻挫・打撲など）
7	学校で行う外科的症対に対する救急処置について（頭部外傷・熱傷など）
8	学校で行う外科的症対に対する救急処置について（眼科・耳鼻科・歯科など）
9	保健指導と救急処置後の事務手続きについて
10	止血法・包帯法等 演習
11	止血法・包帯法等 演習
12	止血法・包帯法等 演習
13	事例（外科的症対）を用いた演習
14	事例（内科的症対）を用いた演習
15	まとめ

評価

試験（筆記と実技を行う）9割、通常の授業態度1割により評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト：授業中に指示する

推薦書：授業中に適宜示す

科目名	臨床看護実習		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 人間発達心理学科		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

心理学科専門科目の教育・保健科目領域に位置づけられており、養護教諭免許取得のために定められた養護に関する科目の必修科目となっている。

科目の概要：

学内での講義・ロールプレイと学外での臨床講義によって展開する。ここでは、看護の視点で子どもの健康保持のために養護教諭として適切な判断と対応ができるための基礎的能力を培う。

学修目標：

1. 感染管理に関して、学校現場にあてはめた場合、どのように取り扱うことがよいのか考え、適切な対処や行動をとることができる。
2. 慢性疾患や障がいのある子ども達を地域の学校（特別支援学校を含む）で受け入れる際に、適切な援助が理解でき、対処・行動することができる。
3. 身体不調や異常を訴える子ども達に対して、症状を見極める能力を身に付け、適切な看護ケアが実施できる。
4. 命や性の教育について、考えることができる。

内容

養護教諭免許取得を本気で目指している学生で、かつ、「看護学概論」「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」の単位を修得している学生を対象とする。

1	ヘルスアセスメントと救急処置のプロセス
2	外科系疾患の重症度の見極めと対応
3	内科系疾患の重症度の見極めと対応
4	スポーツ障害
5	創傷保護と包帯法技術実習
6	身体不調や異常を訴える子どもへのフィジカルアセスメントと対応
7	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（発熱・頭痛・倦怠感）
8	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（腹痛・嘔気嘔吐・呼吸困難）
9	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（掻痒感・外傷・打撲）
10	身体不調や異常を訴える子どもの看護ロールプレイ（意識障害・けいれん・不定愁訴）
11	臨床講義（病院の機能と役割、他職種との連携と機能、病院における感染管理の実際）
12	臨床講義（小児救急看護の実際）
13	臨床講義（慢性疾患および障害のある子どもへの看護、病院と学校との連携）
14	臨床講義（生命と性の教育）
15	臨床看護実習まとめ

評価

授業・実習の参加状況（50点）およびレポート（50点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「看護援助方法」「小児保健看護学」「解剖生理学」等で使用したテキストを準備しておくこと。他にも、授業の中で提示していく。

【推薦書】衛藤隆他編 『最新Q & A教師のための救急百科』 大修館書店

加藤英治 『症状で見る子どものプライマリ・ケア』 医学書院

大谷尚子他編著 『養護教諭のためのフィジカルアセスメント見て学ぶ応急処置の基礎基本』 日本

小児医事出版

【参考図書】鴨下重彦・柳澤正義 『こどもの病気の地図帳』 講談社 493.9/K